

# 近世後期における大阪と江戸の銭相場

——金（銀）相場との対比において——

草 野 正 裕

はじめに

## I 大阪銭相場と江戸匁建換算銭相場

### (1) 大阪銭相場の変動

＜大阪銭相場の変動要因＞

### (2) 江戸匁建換算銭相場の変動

＜江戸匁建換算銭相場の変動要因＞

以下次号

## II 江戸銭相場／大阪銭相場比

### (1) 江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場比

＜江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場比の変動要因＞

### (2) 江戸銭相場／大阪両建換算銭相場比

＜江戸銭相場／大阪両建換算銭相場比の変動要因＞

おわりに

はじめに

われわれは、これまでに物価史および貨幣史の観点から、三都および地方の金（銀）相場の変動を検討してきた。<sup>(1)</sup>そこでつぎに、金（銀）相場の変動

---

(1) 拙稿「近世後期における三都の金（銀）相場」『甲南経済学論集』44巻2号（2003年）、同「江戸末期（文政～幕末期）における土佐・徳島・姫路の金相場——大阪との比較において——」『甲南経済学論集』44巻4号（2004年）、同「幕末期における西摂・北摂池田の金相場——大阪との比較において——」『甲南経済学論集』46巻1号（2005年）、同「近世後期における大津・福井の金相場——大阪との比較において——」『甲南経済学論集』48巻3号（2007年）。

と関連づけながら、三都および地方の銭相場の変動をあつかうこととしたい。

本稿では、まず江戸と大阪の銭相場を比較する。つぎの機会には、京都の銭相場を大阪との対比で検討することとしたい。

## I 大阪銭相場と江戸匁建換算銭相場

### (1) 大阪銭相場の変動

本項では、大阪銭相場の変動を、大阪金相場との対比で検討することとしたい。

大阪金相場の系列は、かつて新保博氏が整理作成されたものである。<sup>(2)</sup> 図1 A下段には、その各年値がグラフ化されている(金1両につき銀匁、半対数目盛)。また図1 B下段には、その5ヵ年移動平均値と波動の峰(○)と谷(●)が描き込まれている(金1両につき銀匁、半対数目盛)。<sup>(3)</sup>

大阪銭相場の系列も、新保博氏が作成されたものである。図1 A中段には、その各年値がグラフ化されている(銭1貫文につき銀匁、半対数目盛)。また図1 B中段には、その5ヵ年移動平均値と波動の峰(○)と谷(●)が描き込まれている(銭1貫文につき銀匁、半対数目盛)。<sup>(4)</sup><sup>(5)</sup>

---

(2) 新保博『近世の物価と経済発展——前工業化社会への数量的接近——』(東洋経済新報社、1978年)、30~37、171~176ページ。なお、原資料は『大阪金銀米銭為替日々相場表』など。

(3) 前掲拙稿「近世後期における三都の金(銀)相場」、3ページの図2下段において、これと同じ大阪金相場のグラフが掲げられているが、そこでは、いくつかの峰と谷を省略している。しかし、本稿では、グラフ表示はすべてコンピューター打ち出しのとおりとした。

(4) 前掲新保『近世の物価と経済発展』、171~176ページ。

(5) 1826(文政9)年および1827(文政10)年は、大阪銭相場の5ヵ年移動平均値は両年とも銭1貫文につき銀9.564匁で同じ値であった。そこで便宜上、両年とも峰と見なして(○)をドットしている。また、1845(弘化2)年、1846(弘化3年)、1847(弘化4)年の場合も、大阪銭相場の5ヵ年移動平均値は3年とも銭1貫文につき銀10匁で同じ値であった。しかし、この3年については、便宜上(○)をドットしなかった。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

図1 A 大阪銭相場（対大阪金相場）

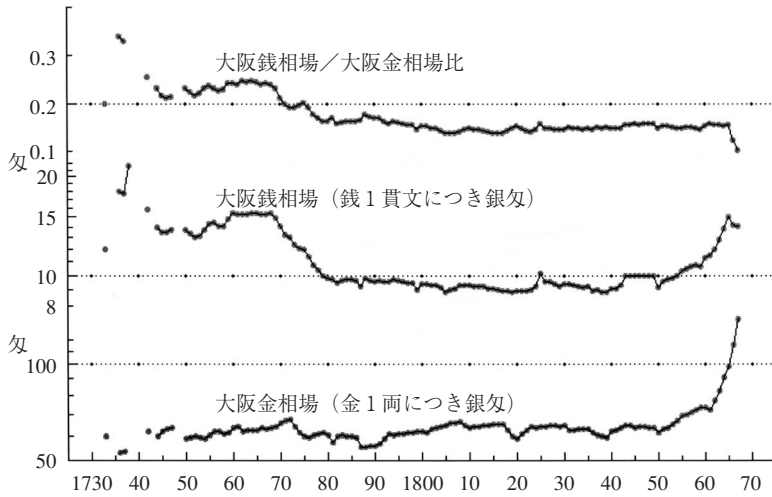
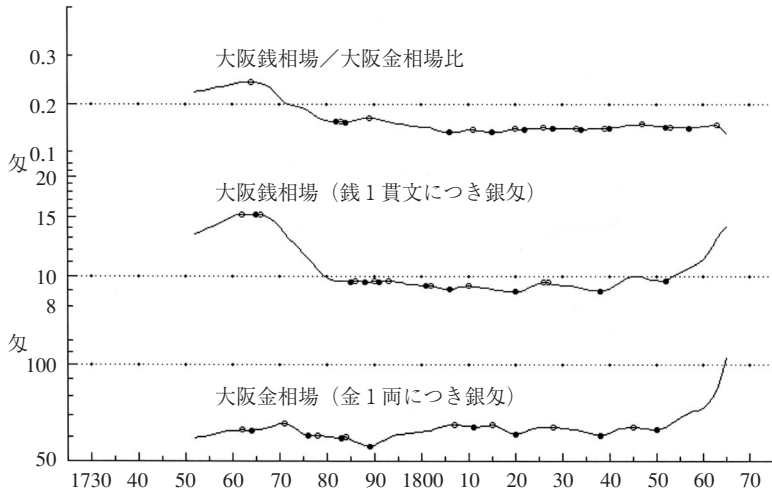


図1 B 5カ年移動平均と峰および谷



最後に図1 A 上段には、大阪銭相場／大阪金相場比（単位1，普通目盛）がグラフ化されている。たとえば、1733（享保18）年に、大阪銭相場は銭1貫文につき銀12.00匁、大阪金相場は金1両につき銀60.10匁であったから、この比は、 $12.00 / 60.10 \approx 0.1997$ となる。また、図1 B 上段には、その5カ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（単位1，普通目盛）。

\*

まず、図1 A 下段の大阪金相場の変動を見ると、1730年代は低い水準にあったと思われる、1740年代はやや高い水準に上昇している。1736（元文元）年、1737（元文2）年は、それぞれ金1両につき銀52.9匁、53.5匁となっていて本稿で対象とした期間ではもっとも金安銀高となっている。

1752（宝暦2）年から5カ年移動平均値が利用できるので、図1 B 下段の大阪金相場の循環的変動を見ると、いくつかの明瞭なサイクルを見いだすことができる。1750年代から上昇しはじめた大阪金相場は、1771（明和8）年に峰に達し、その後、1789（寛政元）年の谷に向かって下降した。ついで金相場は再び上昇をはじめ、1810年前後の峰を経て、1820（文政3）年の谷へと下降している。

その後は、1820（文政3）年の谷から1828（文政11）年の峰を経て1838（天保9）年の谷に至るサイクル、ついで1838（天保9）年の谷から1845（弘化2）年の峰を経て1850（嘉永3）年の谷に至るサイクルの両者を観察することができる。しかし、1850（嘉永3）年の谷以降は、大阪金相場は一方<sup>(6)</sup>的な上昇の傾向となっている。

\*

つぎに、図1 A 中段の大阪銭相場の変動を見ると、1733（享保18）年には

---

(6) 前掲拙稿「近世後期における三都の金（銀）相場」，4ページ。

### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

銭1貫文につき銀12匁の水準であったが、1736（元文元）年、1737（元文2）年、1738（元文3）年には、きわめて高い水準となり、1738（元文3）年に、21.7匁にたった。しかし銭相場はその後急降下し、1752（宝暦2）年には、13匁の底値になった。

1752（宝暦2）年からは5ヵ年移動平均値が利用できるので、図1B中段の大阪銭相場の循環的変動を見ると、つぎのような事実を観察することができる。大阪銭相場は、1760年代に峰を記録し（1762（宝暦12）年の値、銭1貫文につき銀15.37匁が近傍ではもっとも大きい）、その後急降下している。1780年代から1820（文政3）年にかけては、おおむね下降の趨勢であった。

しかし、1820（文政3）年以降は、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれているのは、大阪金相場の場合と同様である。1820（文政3）年の谷から、1826（文政9）年、1827（文政10）年の峰、そして1838（天保9）年の谷にかけての循環が第一のサイクル、1838（天保9）年の谷から、1845（弘化2）年、1846（弘化3）年、1847（弘化4）年の峰、1852（嘉永5）年の谷にかけての循環が第二のサイクルで、以後、急速に銭高銀安が進んで幕末にいたっている。

しかし、対象とした期間について、大阪銭相場各年値の最高は、1738（元文3）年の銭1貫文につき銀21.7匁である。銭高銀安が進んだ幕末期といっても、大阪銭相場各年値の最高は、1865（慶応元）年の銭1貫文につき銀15.11匁にすぎないので、大阪銭相場の水準は、元文期のそれには遠くおよばないということになる（図1A参照）。

\*

図1A上段の大阪銭相場／大阪金相場比の系列に目を移すと、1733（享保18）年には、0.200の水準であったが、1736（元文元）年、1737（元文2）年には、それぞれ、0.340、0.331ときわめて高い水準となった。しかしこの比はその後急降下し、1746（延享3）年には、0.214となって底にたった。

1752（宝暦2）年からは5ヵ年移動平均値が利用できるので、図1B上段の大阪銭相場／大阪金相場比の循環的変動を見ると、はじめこの比は上昇するが、1764（明和元）年に峰に達したのち、1806（文化3）年の谷に向かって下落の趨勢となる。途中、1784（天明4）年を谷とし、1789（寛政元）年を峰とする短い上昇期間が観察されるが、これは大阪金相場に見られる1784（天明4）年を峰とし、1789（寛政元）年を谷とする短い下降期間に対応するものである。

1806（文化3）年からはゆるやかな上昇局面に入り、1847（弘化4）年に峰に達するが、以後はやや下落の趨勢となっている。

\*

以上の観察結果について、大阪銭相場は、大阪金相場との対比でどのように変動したかという観点から要約すると、つぎのように言うことができよう。

1730年代と1740年代は、大阪金相場の下落から上昇へという動きにたいして、大阪銭相場は逆に、上昇から下落へと動いた。したがって、1730年代は、下落する大阪金相場で上昇する大阪銭相場を除することとなり、逆に1740年代は、上昇する大阪金相場で下落する大阪銭相場を除することとなるので、いずれの場合も、大阪銭相場／大阪金相場比は銭相場同様、上昇から下落へと動くことになった。

1750年代から60年代前半にかけて、大阪金相場、大阪銭相場ともに上昇するが、銭相場のほうが上昇圧力が大きく、したがって大阪銭相場／大阪金相場比は上昇した。

1760年代後半から70年代にかけて、大阪金相場はなお上昇するが、銭相場はひとりいち早く急速な下落を開始する。この結果、大阪銭相場／大阪金相場比も急速に下落することとなる。

1770年代および80年代前半にかけては、金相場、銭相場ともに下落の趨勢であるが、銭相場のほうが下降の圧力が大きく、したがって大阪銭相場／大

## 近世後期における大阪と江戸の銭相場

阪金相場比は急速に下落した。

1780年代後半については、先に述べたように、大阪金相場は下落しているが、銭相場は横ばいの趨勢であったから、大阪銭相場／大阪金相場比は一時的に上昇することとなった。

1790年から1820年にかけては、大阪金相場は、上昇の傾向となり、1810年ごろのピークを経て、以下1820年の谷に向かって下降するが、銭相場のほうは、この間、ほぼ下降の趨勢にあった。したがって、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、両者は逆の方向に動いたことになる。<sup>(7)</sup>この結果、大阪銭相場／大阪金相場比は、1810年ごろまでは下落の傾向であったが、その後は、金相場のほうが、下降圧力が大きく、この比はやや上昇することとなった。

1820年以降は、先にも述べたように、金相場、銭相場ともに2サイクル半の周期変動をふくみながら幕末にいたっているが、1820年から50年までの2周期について、金相場は横ばいと考えられるのに対し、銭相場は上昇の傾向にあったから、結果として、大阪銭相場／大阪金相場比はやや上昇の傾向となった。

1850年代以降は、金相場も銭相場も急速な上昇の傾向となったが、金相場のほうがやや上昇圧力が大きく、この結果、大阪銭相場／大阪金相場比は、わずかながら下落の傾向となった。

\*

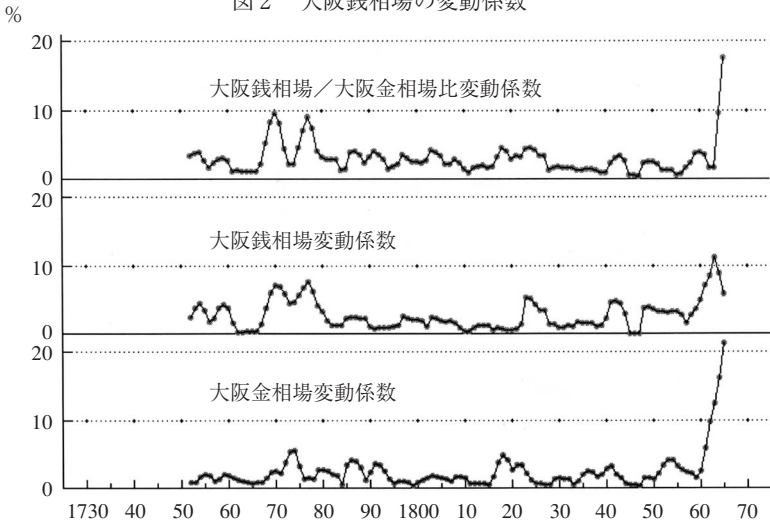
次に、変動係数のグラフをもちいて、大阪銭相場の変動の激しさを、大阪金相場のそれとの対比で検討することとしたい。

図2の変動係数のグラフは、この目的のために作成したものである。下段

---

(7) この点については、新保博氏も指摘している。新保博「銭相場の変動、1789—1867年——一つの数量的接近——」『国民経済雑誌』137巻1号(1978年)、23ページ。また、前掲新保『近世の物価と経済発展』、196ページ。

図2 大阪銭相場の変動係数



には大阪金相場，中段には大阪銭相場，上段には大阪銭相場／大阪金相場比のそれぞれ5年期ごとの変動係数が図示されている。

変動係数は、いくつかの变量について、標準偏差が平均の何%にあたるかというかたちで定式化される。グラフ化に際しては、1750（寛延3）年から1754（宝暦4）年の5年間の変動係数を、その中央年である1752（宝暦2）年にドットするというふうに、いわば「5ヵ年移動変動係数」とでも呼べるようなかたちで処理されている。本論文で変動係数をもちいたのは、このタームをたんに変動の激しさを表わす目安にしようというにすぎない。変動係数をもちいることによって、大阪金相場，大阪銭相場，大阪銭相場／大阪金相場比の系列が、実際にどの程度の幅で変動していたか、あるいは変動しなかったかが明らかとなる。

従来、変動係数は、長期の時系列に適用する場合には、「期間変動係数比較」のような形でもちいられることが多かった。すなわち時系列をたとえば



### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

20年ごとに区切って、20年ごとに変動係数を算出し、相互に比較するという方法がとられた。この方法によると、期間の区切り方に恣意性が残るということを別にしても、標準偏差の計算において変量の順序はまったく任意でよいということから生じる避けがたい問題に逢着する。たとえば、はじめの10年間に変動が激しく、つぎの10年間は安定的であった場合と、その逆の場合とが、まったく同様に扱われるというような問題が生じる。そこでこれらの問題を、できるだけ回避するために、「5ヵ年移動変動係数」とでも呼べるようなものを工夫し、期間の区切り方についての恣意性をなくし、順序交換可能性から生じる問題をなるべく小さくするように配慮したのである。<sup>(8)</sup>

\*

さて図2の観察に移る。下段の大阪金相場の変動係数が5%を越えることはまれであるが、1770年代前半、1820年前後、幕末期には変動係数が大きくなっている。

\*

ついで中段の大阪銭相場の変動係数は、金相場にくらべると大きいときがある。とくに1750年代、1760年代後半～70年代、1820年代、1840年代には銭相場の変動係数が大きくなっている。

しかし、幕末期の最後の2、3年は、逆に、金相場にくらべて銭相場の変動係数は小さくなっている。

また、はじめに金相場の変動係数が大きくなったあと、しばらくして銭相場の変動係数が大きくなっている場合がある。とくに、1770年代と、1810～20年代にそのようなラグが観察され、1840年代についてもそのような傾向がうかがえる。

\*

---

(8) 以上の統計操作については、拙著『近世の市場経済と地域差——物価史からの接近——』（京都大学学術出版会、1996年）、21～22ページ。

図2 上段の大阪銭相場／大阪金相場比の変動係数は、うえに述べた1770年代と、1810～20年代および1840年代のような金相場と銭相場の変動係数のラゲが観察された時期に、大きくなっているようである。

\*

次に、大阪金相場と大阪銭相場の時期ごとの相関の度合いを検討することとしたい。

図3は、大阪金相場と大阪銭相場の相関係数をグラフ化したものである。下段点線はいわば「5カ年移動単純相関係数」とでも呼ぶべきもので、グラフ化にさいしては、たとえば、1750（寛延3）年から1754（宝暦4）年の5年間の相関係数を、その中央年である1752（宝暦2）年にドットするというふうな処理を、繰り返し行なっている。

しかし、下段点線の「5カ年移動単純相関係数」のグラフは、1845（弘化2）年から1847（弘化4）年までの3年間、単純相関係数をドットすることができなかつたので、グラフに切れ目が生じている。これは、1842（天保13）年から1849（嘉永2）年まで幕府によって銭相場が公定され、大阪銭相場も1843（天保14）年から1849（嘉永2）年まで、銭1貫文につき銀10匁の水準に張り付いて動かなかつたことが原因である。このために、1843～47年、44～48年、45～49年の各5年間の単純相関係数は、相関係数の公式の分母にくる大阪銭相場の分散あるいは標準偏差がゼロとなるので、相関係数の値を計算することができなかつた。したがって、5年間の相関係数の中央年である1845年から47年までは相関係数のグラフに切れ目が生じたのである。

つぎに、上段点線は「5カ年移動残差相関係数」とでも呼ぶべきものである。

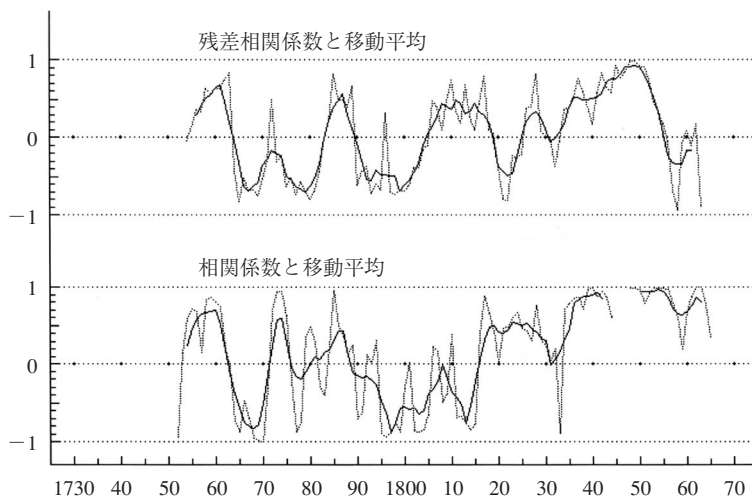
残差相関係数の計算過程はつぎの通りである。すなわち系列のそれぞれに

---

(9) 大蔵省編『大日本貨幣史』8巻（1926年）、113～114ページ。

## 近世後期における大阪と江戸の銭相場

図3 大阪銭相場と大阪金相場の相関係数



ついて、まず、各年値マイナス5カ年移動平均値（すなわち残差）を算出し、しかるのち、これら残差系列間で相関をとっている。グラフ化にさいしては、たとえば、1752（宝暦2）年から1756（宝暦6）年の5年間の残差相関係数を、その中央年である1754（宝暦4）年にドットするというふうな処理を、繰り返し行なっている。なお、すこし考えてみればあきらかであるが、「5カ年移動残差相関係数」のグラフには、「5カ年移動単純相関係数」のグラフにみられたようなグラフの切れ目はあらわれない。

はじめの単純相関係数をもちいると、それぞれの系列がともに上昇趨勢、あるいは下降趨勢にあるような場合、短期的な相関を見だしにくいというようなことがありえよう。そこで、後者の残差相関係数をもちいることにすれば、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめることが可能になると考えられる。

下段上段いずれの場合も実線は、平滑化の目的で、「5カ年移動相関係数」

のさらに5カ年移動平均をとったものをあらわしている。<sup>(10)</sup>

\*

さて、図3をもちいて、大阪金相場と大阪銭相場の時期ごとの相関の度合いを観察することとしたい。この場合、いま述べたように、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめたいという理由から、残差相関を中心に見ていくこととしたい。

上段の残差相関係数と移動平均のグラフを見ると、おおざっぱに言って、1820年ごろまでは、正の相関と負の相関が交互にあらわれている。しかし、1830年ごろ以降になると、幕末期をのぞけば強い正の相関を示していると言えよう。

もうすこしくわしく見ると、1760年前後には金相場と銭相場の相関が強まっている。この時期には、両相場とも上昇の傾向にあり、両者のピークも一致しているから、これらのことが影響したと思われる。

1765年～1780年ぐらいいかけては、一転、逆相関の傾向が観察されるが、これは、1760年代後半に、銭相場が急速に下落するのにたいして、金相場はやや上昇の傾向となっていたことなどが反映している。

1780年代には、金相場と銭相場はふたたび正に相関している。

しかし、1790年代から19世紀'00年代にかけては、一転、ふたたび逆に相関することとなった。この時期は、対象とした期間のなかでは、例外的に、大阪金相場が上昇の傾向となっているのにたいし、大阪銭相場は逆に下降の傾向となっていて、まったく正反対の動きを示している。両者の相関が負の方向にふれているのは、このためである。

ついで、19世紀'00年代後半から、10年代にかけては、みたび正に相関する局面となっている。この時期は、金相場、銭相場ともに、だいたいにおい

---

(10) 以上の統計操作については、前掲拙著『近世の市場経済と地域差』、43～44ページ。

## 近世後期における大阪と江戸の銭相場

て下降趨勢となっている。

1820年代以降になると、大阪金相場と銭相場は、おおむね正に相関している。これは、両者が、2サイクル半の循環的変動をふくみながら、だいたい同一方向に動いたことの反映である。しかし、両者は、1820年代前半には一時的に負の相関に転じている。また、幕末最後の10年ぐらいの時期にも、両者の相関は負の方向にふれている。これらは、図1 A中段の大阪銭相場各年値の動きにみられるように、1825（文政8）年および1865（慶応元）年の銭相場の、突出した特異な各年値が影響していると考えられる。

\*

### <大阪銭相場の変動要因>

1730年代と1740年代は、大阪金相場の下落から上昇へという動きにたいして、大阪銭相場は逆に、上昇から下落へと動いた。このように金相場と銭相場が逆の方向に動く時期は少ない。そこで、この時期の両相場の変動要因を考える際には、まず、この時期の改鋳事情に注目する必要がある。

1736（元文元）年の金銀改鋳の開始とともに銭相場は騰貴し、幕府は銭の買占め・売り惜しみを禁止するとともに、江戸や大阪から地方への銭の移出を厳重に取り締まった。そして鋳銭希望者を募り、1736（元文元）年の江戸深川十萬坪・山城鳥羽横大路・山城伏見・江戸小梅・佐渡をはじめとして、全国21か所に銭座を設け大規模に鋳銭を行った。鋳造は1745（延享2）年までのほぼ10年間に集中しており、その高は判明しているものだけでも676万貫文を上回る。この大量の鋳造は寛永期に匹敵するといわれ、また、鉄銭もさかんに鋳造されたという<sup>(11)</sup>。

したがって、このような銭の大量鋳造が、この時期における大阪銭相場の

---

(11) 安国良一「貨幣史における近世——銭貨を中心に——」（永井久美男編『近世の出土銭I——論考篇——』（兵庫埋蔵銭調査会、1997年）所収）19ページ。前掲新保『近世の物価と経済発展』、208～209ページ。

下落につながったのはまちがいのないところであろう。

つぎに、大阪銭相場は、1760年代に峰を記録し、その後1780年代にかけて急降下した。また、大阪銭相場／大阪金相場比は、1750年代に上昇するが、1764（明和元）年に峰に達したのち、1780年代にかけて下落の趨勢となる。

1760年代から70年代にかけては、大阪の金相場が上昇しており、これはとりもなおさずこの時期における秤量銀貨の下落を表している。幕府の貨幣政策としては、三貨の均衡を維持する立場から、金・銭の増鑄が一つの方策であったと言える。そこで、1772（安永元）年に南鐐二朱銀が新鑄されたが、これは、金の増鑄にはかならなかつた。また、銭について言えば、1765（明和2）年には亀戸で鑄銭が開始されている。一般に、明和（1764～71年）・安永期（1772～80年）の鑄銭は銀貨の低下と関連していたのであり、銀貨の低落が大量鑄造を可能にしたともいえる。このころになると各地の銭座はほぼ停止されたが、代わって銀座による四文銭鑄造は漸減しながらも継続したのである。<sup>(12)</sup>

以上のような事情が、1770年代を中心とする大阪銭相場の急落と深くかわっていたと思われる

ついで、大阪銭相場は、1780年代から1820（文政3）年にかけては、おおむね下降の趨勢であった。しかるに大阪金相場は、1790年ごろから1810年ごろまでは、明確に上昇傾向をもった。したがって、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、両者は逆の方向に動いたことになる。これは本稿で対象とした期間のうちでは、非常に特徴的なことであるといえる。

この期間は、銀座による四文銭鑄造は漸減しながらも継続したが、松平定信政権は、1788（天明8）年に二朱銀・真鍮四文銭の鑄造を停止している。<sup>(13)</sup>

---

(12) 前掲安国「貨幣史における近世」、22～23ページ。前掲新保『近世の物価と経済発展』、209～212ページ。

(13) 同上、23ページ。

### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

二朱銀の鑄造停止は、大阪金相場の上昇に影響したかもしれないが、真鍮四文銭の鑄造停止が、大阪銭相場の下落に影響をあたえたとは考えがたい。したがって、この時期に大阪金相場と銭相場が逆の方向に動いたことについては、改鑄などの貨幣要因だけで説明することはむづかしいとおもわれる。

かつて新保博氏は、この問題についてつぎのような説明をあたえたことがある。「1790年代から1810年代にかけての時期は、有効需要の縮小にもとづく物価の継続的低落がすすみ、また大阪から江戸への商品輸出の縮小などにより大阪－江戸間収支バランスが大阪に不利となって、金相場の上昇すなわち銀目通貨の相対的価値の低落が生じている。このような状況のもとでは、都市・農村を問わず取引量は減少し、小額貨幣とくに銭貨の需要を縮小させ、銭貨の供給過剰をまねくことになる。過剰になった銭貨は幕府に還流するわけではなく、そのまま流通界にとどまっているから、銭貨の相対的価値の引き下げに結果せざるをえない。かくて、この時期には物価の低落・金（銀）相場の上昇・大阪（江戸）銭相場の低落（高騰）が基本的趨勢となったのである<sup>(14)</sup>」。みごとな説明というほかないと思われる。

さて、1820（文政3）年以降になると、大阪銭相場は、一転上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれていた。これは、大阪金相場の動向とほぼ同様で、以前の時期に見られた両相場が逆方向に動くといった現象は見られなくなった。

また、大阪銭相場／大阪金相場比も、1806（文化3）年からはゆるやかな上昇局面に入り、1847（弘化4）年に峰に達するが、以後はやや下落の趨勢となっている。

文政期以降にも、しばしば銭の改鑄が行われている。1821（文政4）年～

---

(14) 前掲新保「銭相場の変動、1789－1867年」、33ページ。前掲新保『近世の物価と経済発展』、213ページ。なお後者において、行論が多少修正されている。ここでの引用は前者に拠った。

1825（文政8）年に真鍮四文銭31万8800貫文が増鑄された。しかしこの鑄造は、この前後の明和（1764～71年）～天明期（1781～88年）や天保期（1830～43年）の鑄銭高に比して極端に少ない。天保期になると、1835（天保6）年から江戸橋場町で天保通宝百文銭の新鑄、1835（天保6）～1837（天保8）年には江戸深川で寛永通宝鉄一文銭の増鑄が行われた。また、1857（安政4）年から銀座兼帯の江戸橋場町銭座で真鍮四文銭、1859（安政6）年から銀座兼帯の小菅銭座で鉄一文銭、1860（万延元）年から銀座兼帯の深川銭座や橋場町で精鉄四文銭が鑄造された。<sup>(15)</sup>

このような銭の増鑄は、同時に金銀の改鑄が行われていることもあって、銭相場時系列のグラフ上に、かならずしもその痕跡をとどめているとは言えないようである。

さてつぎに、大阪銭相場の変動係数は、大阪金相場にくらべると大きいときがある。とくに1750年代、1760年代後半～70年代、1820年代、1840年代には銭相場の変動係数が大きくなっている。しかし、幕末期の最後の2、3年は、逆に、金相場にくらべて銭相場の変動係数は小さくなっている。

1750年代に銭相場の変動係数は金相場のそれよりも大きくなっているのは、この時期に銭相場のほうが金相場よりも上昇圧力が大きかったことの現れである。また、1730年代後半から1740年代前半にかけて大量の鑄銭が行われたが、1750年代の銭相場変動係数の大きさが、この鑄造の影響が尾を引いたものかどうかはわからない。

1760年代後半から70年代を通じて銭相場の変動係数は金相場のそれよりも大きくなっているが、この時期は、銭相場が急落していて、その変動係数が大きくなっているのも当然であると思われる。また一方、1765（明和2）年の亀戸での鑄銭開始、五匁銀（1765（明和2）年）や二朱銀（1772（安永元）

---

(15) 前掲安国「貨幣史における近世」、24、25、30ページ。



### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

年)の新鑄,などの貨幣事情が大阪銭相場の変動係数を大きくしたものと考えられよう。

1820年代は,1825(文政8)年の大阪銭相場が極端な高値となった影響を受けて,大阪銭相場の変動係数が大きくなっている。なお,1821(文政4)年~1825(文政8)年に真鍮四文銭31万8800貫文が増鑄されたが,この鑄造高は大きくなかったので,大阪銭相場の変動係数に影響をあたえたかどうかはわからない。

1840年代にも銭相場の変動係数が大きくなっている。さきにも述べたように天保期(1830~43年)になると,1835(天保6)年から江戸橋場町で天保通宝百文銭の新鑄,1835(天保6)~1837(天保8)年には江戸深川で寛永通宝鉄一文銭の増鑄が行われている。しかし,1840年代の銭相場変動係数の大きさが,この鑄造の影響が尾を引いたものかどうかはわからない。むしろ,1842(天保13)年から1849(嘉永2)年まで幕府によって銭相場が公定され,大阪銭相場も1843(天保14)年から1849(嘉永2)年まで,銭1貫文につき銀10匁の水準に張り付いて動かなかったことが影響していると思われる。すなわち,公定期間前後の銭相場の大きな値動きが変動係数を大きくしたと言えよう。

幕末期の最後の2,3年は,逆に,金相場にくらべて銭相場の変動係数は小さくなっている。さきに述べたように,1857(安政4)年から銀座兼帯の江戸橋場町銀座で真鍮四文銭,1859(安政6)年から銀座兼帯の小菅銀座で鉄一文銭,1860(万延元)年から銀座兼帯の深川銀座や橋場町で精鉄四文銭が鑄造された。もっとも,これらのことが,幕末期に大阪銭相場の変動係数が大きくなったこと,しかし幕末最後の2,3年は金相場にくらべて銭相場の変動係数は小さくなっていることなどと,どのように関係しているかはもちろんわからない。むしろ幕末期に大阪において,金高銀安傾向が急速に進んだことが,幕末期の最後の2,3年は,逆に,金相場にくらべて銭相場の

変動係数が小さくなっていることの原因であると考えられよう。

最後に、相関係数の分析によると、大阪金相場の系列と大阪銭相場の系列は、1830年ごろ以降になると、幕末期をのぞけば強い正の相関を示していると言えよう。このような指摘は、これまでに行われたことはなかったので、とくに強調しておきたいと思う。

おおざっぱに言って、1820年代以降になると、大阪金相場と銭相場は、おおむね正に相関している。これは、両者が、2サイクル半の循環的変動をふくみながら、だいたい同一方向に動いたことの反映である。

文政期（1818～29年）以降になると、大阪金相場と銭相場が同じような波動を描き、相関を強めていったという事実は、江戸時代から近代への貨幣市場の展開を考えるうえで第一級の重要性をもつものと思われる。銭はほぼ金に連動するようになり、銀は、なおニューメレールとしての役割を担ったが、しだいに後景に退くこととなったのである。同時に、江戸地廻り経済圏の発展とともに、したがって通貨の点でも大阪の相対的地位の低下はいかんともしがたい趨勢であったと言えよう。

## （2）江戸匁建換算銭相場の変動

さてつぎに、江戸銭相場の変動を、江戸銀相場との対比で検討することとしたい。なお、大阪は金相場と言い、江戸は銀相場と言うが、両者の単位はいずれも金1両につき銀匁であるから、呼称は違っていても内実は同じである。

江戸銀相場の系列は、かつて新保博氏が整理作成されたものである。<sup>(16)</sup> 図4 A 下段には、その各年値がグラフ化されている（金1両につき銀匁、半対数目盛）。また図4 B 下段には、その5カ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（金1両につき銀匁、半対数目盛）。

---

(16) 前掲新保『近世の物価と経済発展』、171～176ページ。なお、原資料は『新稿両替年代記関鍵』巻1、資料編。

### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

江戸銭相場の系列も、新保博氏が作成されたものである<sup>(17)</sup>。

ところで、江戸銭相場は「金1両につき銭貫文」で表示されている。したがって、銭相場と銀相場との相対的変動を観察する目的で、江戸銭相場（金1両につき銭貫文）／江戸銀相場（金1両につき銀匁）比を計算しても単位が無名数とならない。さらに困るのは、大阪銭相場が「銭1貫文につき銀匁」で表示されているので、大阪銭相場と江戸銭相場（金1両につき銭貫文）とを比較することがむづかしい。

そこで、まず、江戸銭相場を銀匁建て、すなわち大阪銭相場同様「銭1貫文につき銀匁」に換算することとした<sup>(18)</sup>。具体的には、江戸銀相場（金1両につき銀匁）／江戸銭相場（金1両につき銭貫文）＝江戸匁建換算銭相場（銭1貫文につき銀匁）という計算をおこなった。たとえば、1733（享保18）年に、江戸銀相場は59.45匁で、同銭相場は5.020貫（次稿付表6（その1））であったから、江戸匁建換算銭相場は、 $59.45 / 5.020 \div 11.84$ 匁と計算される。

さて、図4A中段には、江戸匁建換算銭相場の各年値がグラフ化されている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。また図4B中段には、その5カ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。

最後に上段には、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比（単位1、普通目盛）がグラフ化されている。たとえば、1733（享保18）年に、江戸匁建換算銭相場は、銭1貫文につきおよそ銀11.84匁で、江戸銀相場は金1両につき銀59.45匁であったから、この比は、 $11.84 / 59.45 \div 0.1992$ となる。また、図4B上段には、その5カ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込ま

---

(17) 同上。

(18) 新保博氏のばあいは、大阪銭相場が両建てに換算されている。前掲新保『近世の物価と経済発展』171～176ページ。また、新保博「銭相場の変動、1736～88年——一つの数量的接近——」『国民経済雑誌』133巻6号（1976年）、3ページ。

れている（単位1，普通目盛）。

\*

まず、図4 A下段、図4 B下段の江戸銀相場の循環的変動を見ると、いくつかの明瞭なサイクルを見いだすことができる。<sup>(19)</sup>1730年代は低い水準にあった。とくに、1737（元文2）年は、金1両につき銀52.2匁となっていて（図4 A下段）、本稿で対象とした期間ではもっとも金安銀高となっている。その後銀相場は上昇をはじめ、5ヵ年移動平均の系列でみて、1746（延享3）年にピークに達したのち下降、1752（宝暦2）年には谷となっている。1750年代から上昇しはじめた江戸銀相場は、1771（明和8）年に峰に達し、その後、1788（天明8）年の谷に向かって下降した。ついで銀相場は再び上昇をはじめ、1810年前後の峰を経て、1820（文政3）年の谷へと下降している。

その後は、1820（文政3）年の谷から1827（文政10）年の峰を経て1838（天保9）年の谷に至るサイクル、ついで1838（天保9）年の谷から1845（弘化2）年の峰を経て1850（嘉永3）年ごろの谷に至るサイクルの両者を観察することができる。しかし、1850（嘉永3）年ごろの谷以降は、江戸銀相場は一方的な上昇の傾向となっている。けれども、1867（慶応3）年にいって相当程度下落しているのが目を引く（図4 A下段）。

\*

つぎに、図4 A中段の江戸匁建換算銭相場の変動を見ると、1733（享保18）年には銭1貫文につきおよそ銀11.84匁の水準であったが、1730年代後半にはきわめて高い水準となり、1739（元文4）年には、およそ銀20.62匁の水準に達した。しかし匁建換算銭相場はその後急降下し、1752（宝暦2）年には、およそ銀13.50匁の底値になった。

---

(19) われわれは、旧稿ですでに、江戸銀相場の変動を大阪金相場のそれとの対比において分析検討している。前掲拙稿「近世後期における三都の金（銀）相場」, 13～16ページ。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

図4 A 江戸銭相場（対江戸銀相場）

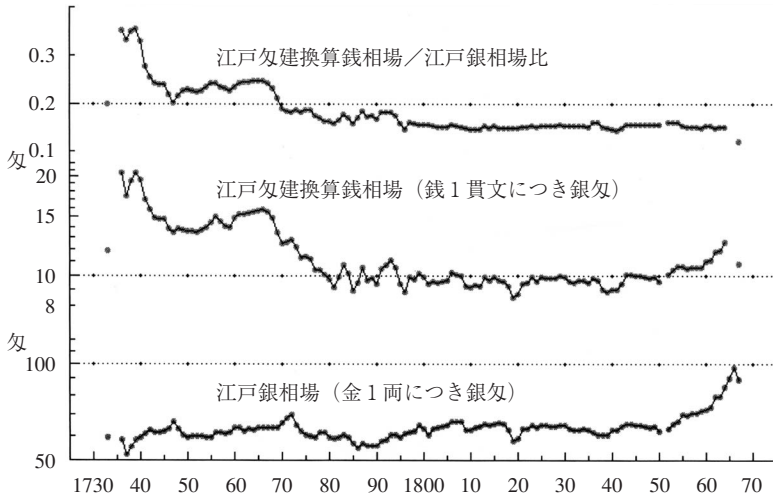
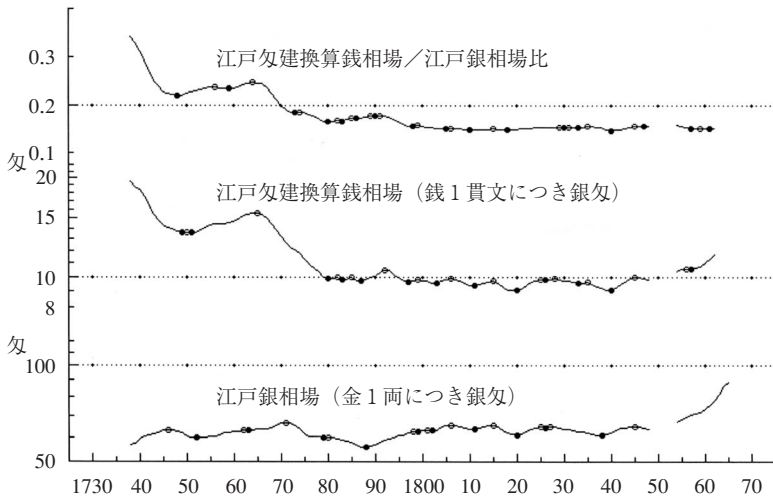


図4 B 5カ年移動平均と峰および谷



ついで、図4 B中段の5ヵ年移動平均による循環的変動を見ると、江戸匁建換算銭相場は、1765（明和2）年に峰を記録し（各年値としては、1766（明和3）年の値、銭1貫文につきおよそ銀15.79匁が近傍ではもっとも大きい）、その後急降下している。そして、1780年代から1790年代前半にかけてはやや上昇の傾向を示し、その後は、1820（文政3）年にかけて、おおむね下降の趨勢であった。

しかし、1820（文政3）年以降は、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれているのは、江戸銀相場の場合と同様である。

1820（文政3）年の谷から、1828（文政11）年の峰、そして1840（天保11）年の谷にかけての循環が第一のサイクル、1840（天保11）年の谷から、1845（弘化2）年の峰、1850年ごろの谷にかけての循環が第二のサイクルで、以後、急速に銭高銀安が進んで幕末にいたっている。しかし、1867（慶応3）年にいたって急激に下落しているのが目を引く（図4 A中段）。

なお、対象とした期間について、江戸匁建換算銭相場各年値の最高は、1739（元文4）年のおよそ銀20.62匁である。銭高銀安が進んだ幕末期といっても、近傍における江戸匁建換算銭相場各年値の最高は、1864（元治元）年の銭1貫文につきおよそ銀12.62匁にすぎないので、江戸匁建換算銭相場の水準は、元文期のそれには遠くおよばないということになる（図4 A参照）。

\*

つぎに、図4 A上段の江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場の系列に目を移すと、1733（享保18）年には、0.199の水準であったが、1736（元文元）年、0.352、1737（元文2）年、0.332、1738（元文3）年、0.350、1739（元文4）年、0.355、1740（元文5）年、0.329と、いずれもきわめて高い水準となった。しかしこの比はその後急降下し、1747（延享4）年には、0.203となって底に達した。

## 近世後期における大阪と江戸の銭相場

ついで、図4 B上段の5ヵ年移動平均による循環的変動を見ると、はじめ江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は下落するが、1748（寛延元）年に谷に達したのち、1764（明和元）年の峰に向かって上昇の趨勢となる。

しかし、1764（明和元）年の峰から、1780（安永9）の谷にかけては下降の趨勢となり、ついで、この1780（安永9）の谷から1791（寛政3）年の峰にかけては、やや上昇の傾向を示した

その後は、1805（文化2）年ぐらいまで下降したが、以後幕末まで横ばいの趨勢であった。しかし、1867（慶応3）年には、この比は大きく落ち込んでいるのが目につく。

### \*

以上の観察結果について、江戸匁建換算銭相場は、江戸銀相場との対比でどのように変動したかという観点から要約すると、つぎのように言うことができよう。

1730年代と1740年代前半にかけては、江戸銀相場の下落から上昇へという動きにたいして、江戸匁建換算銭相場は逆に、上昇から下落へと動いた。したがって、1730年代は、下落する江戸銀相場で上昇する江戸匁建換算銭相場を除することとなり、逆に1740年代前半は、上昇する江戸銀相場で下落する江戸匁建換算銭相場を除することとなるので、いずれの場合も、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は江戸匁建換算銭相場同様、上昇から下落へと動くことになった。

1740年代後半になると、一時江戸銀相場の下落局面があり、匁建換算銭相場はさほど下落しなかったので、その結果、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比はやや上昇している。

1750年代から60年代前半にかけては、江戸銀相場、江戸匁建換算銭相場ともに上昇するが、銭相場のほうがはるかに上昇圧力が大きく、したがって江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は上昇した。

1760年代後半から70年代にかけて、江戸銀相場はなお上昇するが、江戸匁建換算銭相場はひとりいち早く急速な下落を開始する。この結果、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比も急速に下落することとなる。

1770年代は、江戸銀相場、江戸匁建換算銭相場ともに下落の趨勢であるが、銭相場のほうが下降の圧力が大きく、したがって江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は急速に下落した。

しかし、1780年代については、江戸銀相場は下落しているが、銭相場は横ばいの趨勢であったから、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は一時的に上昇することとなった。

1790年から1820年にかけては、江戸銀相場は、上昇の傾向となり、1810年ごろのピークを経て、以下1820年の谷に向かって下降するが、銭相場のほうはこの間、ほぼ下降の趨勢にあった。したがって、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、両者は逆の方向に動いたことになる。<sup>(20)</sup>この結果、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は、1810年ごろまでは下落の傾向であったが、その後は、江戸銀相場および江戸匁建換算銭相場ともほぼ平行に推移し、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は、ほぼ横ばいとなった。

1820年以降は、江戸銀相場、江戸匁建換算銭相場ともに2サイクル半の周期変動をふくみながら、ほぼ平行に動いて幕末にいたっているため、結果として、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比はほぼ横ばいの傾向となった。

1850年代以降は、江戸銀相場も銭相場も急速な上昇の傾向となったが、江戸銀相場のほうがやや上昇圧力が大きく、この結果、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は、わずかながら下落の傾向となった。

\*

図5は、江戸匁建換算銭相場の変動の激しさを、江戸銀相場のそれとの対

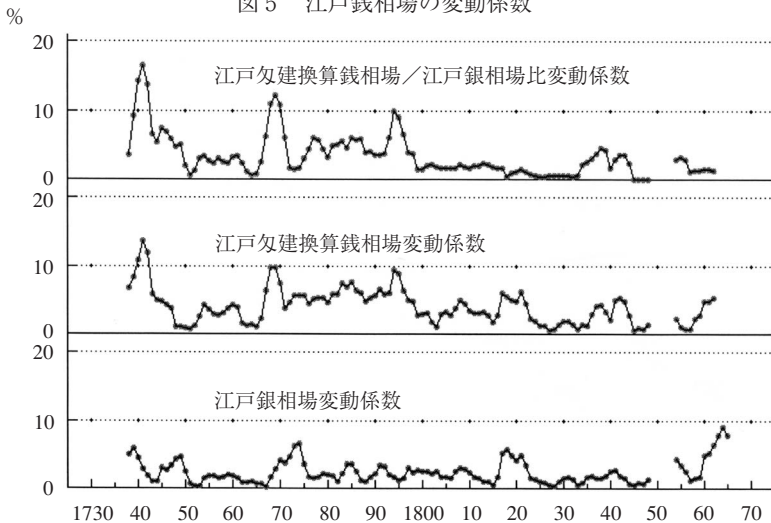
---

(20) 注(7)に同じ。



近世後期における大阪と江戸の銭相場

図5 江戸銭相場の変動係数



比において検討する目的で作成したものである。統計処理は、先の図2の場合とまったく同じである。下段には江戸銀相場，中段には江戸匁建換算銭相場，上段には江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比のそれぞれ5年期ごとの変動係数が図示されている。

\*

さて図5の観察に移る。まず、江戸銀相場の変動係数は、大阪金相場のそれにくらべると、全期をつうじてかなり大きいようである<sup>(21)</sup>。たとえば、1770年代前半には江戸銀相場の変動係数は6%の水準を超えている。しかし、幕末期1860年代には、江戸銀相場の変動係数は大阪金相場の変動係数ほど大きくはない。

\*

(21) この点については、前掲拙稿「近世後期における三都の金（銀）相場」、16～19ページ。

つぎに、江戸匁建換算銭相場の変動係数を見ると、この場合も大阪銭相場の変動係数に比べ、江戸のそれはかなり大きくなっている。とくに、1740年前後、1770年前後、1795年前後に、江戸匁建換算銭相場の変動係数は、大阪銭相場のそれにくらべて相当大きくなっている。しかし幕末期になると、江戸匁建換算銭相場の変動係数は、大阪銭相場のそれにくらべてはるかに小さくなった。

さらに、江戸匁建換算銭相場の変動係数は、江戸銀相場のそれとくらべてもかなり大きい。銭相場の変動係数は、5～10%になることが頻繁に生じていて、とくに1738（元文3）から1744（延享元）年にかけて、および1767（明和4）年から1797（寛政9）年にかけての時期がそのような例となっている。

\*

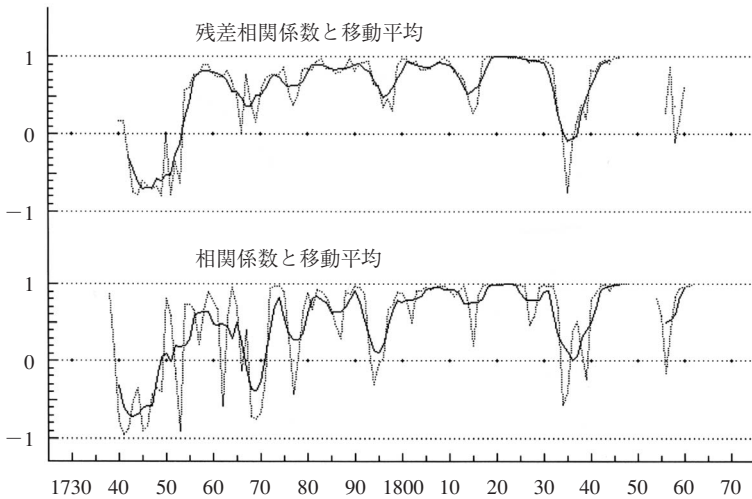
図5上段の江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比の変動係数は、これを波動として眺めたとき、18世紀には、江戸匁建換算銭相場の変動係数とほぼ同じような動きを示しているが、19世紀に入ると、この比は、すこぶる低位安定的に推移した。これは、とりもおさず、19世紀に江戸匁建換算銭相場が、江戸銀相場とほとんどパラレルに推移したことの反映である。

\*

つぎに、図6は、江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の相関係数をグラフ化したものである。統計処理は、図3の場合とまったく同じである。下段点線はいわば「5ヵ年移動単純相関係数」とでも呼ぶべきもので、また上段点線は「5ヵ年移動残差相関係数」とでも呼ぶべきものである。下段上段いずれの場合も実線は（平滑化の目的で）「5ヵ年移動相関係数」のさらに5ヵ年移動平均をとったものをあらわしている。図6の観察についても、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめたいという理由から、残差相関の系列を中心にみていくこととしたい。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

図6 江戸銭相場と江戸銀相場の相関係数



\*

さて、図6をもちいて、江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の時期ごとの相関の度合いを観察することとしたい。

まず一見して、二つの系列のあいだには、非常に強い相関が観察される。さきに図3でグラフ化された大阪金相場と大阪銭相場の相関と比較すれば、両者の違いはきわだっているといえよう。

負に相関している時期は、ごくわずかである。唯一、1740年代から1750年代はじめにかけては、大きく負の方向に相関している。これは、おおむねこの時期に、江戸銀相場が上昇したのに対して、江戸匁建換算銭相場は下落の傾向をしめしたことが反映しているといえよう。1830年代中頃および幕末期にも、一時的にわずかに負の方向にふれているが、これは、両者に見られる正相関の趨勢を覆すほどのものとはいえないであろう。

さきに述べたように、1790年から1820年にかけては、江戸銀相場は、上昇

の傾向となり、1810年ごろのピークを経て、以下1820年の谷に向かって下降するが、銭相場のほうは、この間、ほぼ下降の趨勢にあった。したがって、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、両者は逆の方向に動いたことになる。にもかかわらず、この間、二つの系列のあいだには、非常に強い相関が観察されるのは、非常に印象的である。

\*

#### <江戸匁建換算銭相場の変動要因>

江戸匁建換算銭相場は、1739（元文4）年には、およそ銀20.62匁の水準に達した。しかし匁建換算銭相場はその後急降下し、1752（宝暦2）年には、およそ銀13.50匁の底値になった。その後同相場は、1765（明和2）年に峰を記録しその後急降下している。そして、1780年代から1790年代前半にかけてはやや上昇の傾向を示し、その後は、1820（文政3）年にかけて、おおむね下降の趨勢であった。しかし、1820（文政3）年以降は、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれているのは、江戸銀相場の場合と同様である。しかし、1867（慶応3）年にいって急激に下落した。

このような江戸匁建換算銭相場の動向は、おおざっぱに言って大阪銭相場の動向と大きく変わるころはなかったため、その変動要因についてもさきに述べた大阪銭相場のそれと基本的に変わるころはなかったと思われる。もっとも、仔細に見れば江戸と大阪のあいだには当然相違もあったが、この点については次稿でくわしく検討することとしたい。

つぎに、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は、はじめ下落するが、1748（寛延元）年に谷に達したのち、1764（明和元）年の峰に向かって上昇の趨勢となる。しかし、1764（明和元）年の峰から、1780（安永9）の谷にかけては下降の趨勢となり、ついで、1780（安永9）の谷から1791（寛政3）年の峰にかけては、やや上昇の傾向を示した。その後は、1810（文化7）年ぐ

### 近世後期における大阪と江戸の銭相場

らいまで下降したが、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、江戸銀相場と江戸匁建換算銭相場は逆の方向に動いたことが注目される。以後、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比は、幕末まで横ばいの趨勢であった。もっとも、1850年代以降は、江戸銀相場も銭相場も急速な上昇の傾向となったが、江戸銀相場のほうがやや上昇圧力が大きく、この結果、この比は、わずかながら下落の傾向となったと見ることもできよう。そして、1867（慶応3）年には、この比は大きく落ち込んでいるのが目につく。

このような江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比の動向も、さきに述べた大阪銭相場／大阪金相場比の動向と基本的に変わるところはなかった。しかし、化政期（1804～29年）以降、大阪銭相場／大阪金相場比はやや上昇の傾向であったが、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比はほぼ横ばいの趨勢であったことは注目にあたいする。

さて、江戸匁建換算銭相場の変動係数は、江戸銀相場のそれとくらべてかなり大きい。銭相場の変動係数は、5～10%になることが頻繁に生じていて、とくに1738（元文3）から1744（延享元）年にかけて、および1767（明和4）年から1797（寛政9）年にかけての時期がそのような例となっている。また、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比の変動係数は、これを波動として眺めたとき、18世紀には、江戸匁建換算銭相場の変動係数とほぼ同じような動きを示しているが、19世紀に入ると、この比は、すこぶる低位安定的に推移した。これは、とりもなおさず、19世紀に江戸匁建換算銭相場が、江戸銀相場とほとんど平行に推移したことの反映である。

この最後の点、江戸匁建換算銭相場／江戸銀相場比の変動係数が、19世紀に入るとすこぶる低位安定的に推移したということは注目されてよい。

つぎに相関係数に目を転じると、江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場のあいだには、非常に強い相関が観察される。さきに述べたように1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、趨勢としては、両者は逆の方向に動いたのであ

るが、それにもかかわらず、この間、二つの系列のあいだには非常に強い相関が観察されたのは驚くべきことである。

江戸において、18世紀後半から幕末にかけて、金と銭は、銀をニューメレールとしたとき、短期的には高い相関を保ちながら推移したことになる。中長期的に両者が相反する方向に動いた場合でも、短期的には相関が大きいといった場合も観察されたのである。

さきに述べたように、大阪の場合も、金と銭は、銀をニューメレールとしたとき、文政期（1818～29年）以降になると相関を強めていったのであるが、江戸における金と銭の相関の大きさにくらべると比較にならない程度であったと言えよう。この観察事実は、これまでに指摘されたことはなかったが、江戸時代の三貨制度を考えるうえで特筆に値すると考えられる。銀遣いの大阪では、銀が金と銭の相関を崩していたと思われるのに対し、金遣いの江戸では当初より銀が後景に退き、金と銭の相関が大きくなっていったと思われる。しかし、文政期（1818～29年）以降になると、大阪においても銀の衰退は覆うべくもなく、金と銭の相関が強まり銀目停止を必然のものにしていったというべきであろう。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表1(その1) 大阪銭相場と大阪金相場の動向

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一両につき銀匁)			大阪銭相場/ 大阪金相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数
1733 (享保18)	12.00			60.10			0.200		
34 ( 19)									
35 ( 20)									
1736 (元文 1)	18.00			52.90			0.340		
37 ( 2)	17.70			53.50			0.331		
38 ( 3)	21.70								
39 ( 4)									
40 ( 5)									
1741 (寛保 1)									
42 ( 2)	15.80			62.20			0.254		
43 ( 3)									
44 (延享 1)	14.00			60.00			0.233		
45 ( 2)	13.50			62.00			0.218		
1746 ( 3)	13.45			62.96			0.214		
47 ( 4)	13.70			63.64			0.215		
48 (寛延 1)									
49 ( 2)									
50 ( 3)	13.72			58.72			0.234		
1751 (宝暦 1)	13.40			59.49			0.225		
52 ( 2)	13.00	13.41	2.40	60.06	59.34	0.86	0.216	0.226	3.22
53 ( 3)	13.19	13.52	3.75	59.43	59.63	0.82	0.222	0.227	3.69
54 ( 4)	13.73	13.72	4.57	59.00	60.08	1.71	0.233	0.228	3.84
55 ( 5)	14.29	13.94	3.52	60.19	60.42	2.11	0.237	0.231	2.53
1756 ( 6)	14.39	14.11	1.81	61.70	60.76	1.92	0.233	0.232	1.49
57 ( 7)	14.12	14.34	2.22	61.76	61.26	1.05	0.229	0.234	2.30
58 ( 8)	14.04	14.56	3.89	61.15	61.92	1.47	0.230	0.235	2.78
59 ( 9)	14.85	14.75	4.43	61.51	62.37	2.01	0.241	0.237	2.88
60 ( 10)	15.40	15.00	3.88	63.49	62.45	1.94	0.243	0.240	2.66
1761 ( 11)	15.36	15.26	1.51	63.92	62.73	1.56	0.240	0.243	1.12
62 ( 12)	15.35	15.37	0.18	62.20	62.91	1.20	0.247	0.244	1.17
63 ( 13)	15.34	15.37	0.16	62.52	62.76	1.08	0.245	0.245	1.09
64 (明和 1)	15.40	15.35	0.30	62.40	62.69	0.85	0.247	0.245	1.08
65 ( 2)	15.38	15.34	0.32	62.75	62.87	0.75	0.245	0.244	1.04
1766 ( 3)	15.28	15.35	0.34	63.57	63.12	0.91	0.240	0.243	1.12

付表1(その2) 大阪銭相場と大阪金相場の動向

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場/ 大阪金相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数
1767(明和 4)	15.31	15.24	1.40	63.10	63.49	0.91	0.243	0.240	2.13
68( 5)	15.38	14.97	3.77	63.80	64.07	1.52	0.241	0.234	5.16
69( 6)	14.87	14.58	6.08	64.21	64.74	2.37	0.232	0.226	8.33
70( 7)	14.03	14.12	7.13	65.65	65.65	2.54	0.214	0.216	9.65
1771( 8)	13.32	13.53	6.99	66.92	65.75	2.33	0.199	0.206	8.11
72(安永 1)	13.00	12.97	5.93	67.65	65.16	3.88	0.192	0.199	4.36
73( 2)	12.43	12.57	4.55	64.33	63.97	5.42	0.193	0.197	2.02
74( 3)	12.06	12.19	4.76	61.24	62.45	5.63	0.197	0.195	2.08
75( 4)	12.04	11.73	5.77	59.69	60.95	3.32	0.202	0.192	4.59
1776( 5)	11.42	11.32	6.80	59.33	60.31	1.42	0.192	0.188	7.20
77( 6)	10.71	10.90	7.57	60.14	60.37	1.56	0.178	0.181	8.96
78( 7)	10.36	10.45	6.25	61.15	60.52	1.43	0.169	0.173	7.45
79( 8)	9.99	10.11	4.10	61.53	60.13	2.70	0.162	0.168	4.00
80( 9)	9.76	9.87	3.37	60.43	60.09	2.71	0.162	0.164	3.17
1781(天明 1)	9.75	9.72	1.98	57.40	59.91	2.55	0.170	0.162	2.81
82( 2)	9.47	9.66	1.26	59.93	59.60	2.09	0.158	0.162	2.81
83( 3)	9.62	9.66	1.24	60.25	59.51	2.00	0.160	0.162	2.80
84( 4)	9.72	9.63	1.15	59.99	59.91	0.52	0.162	0.161	1.17
85( 5)	9.75	9.58	2.26	60.00	59.01	3.46	0.163	0.162	1.48
1786( 6)	9.60	9.61	2.41	59.40	58.02	4.22	0.162	0.166	3.78
87( 7)	9.21	9.60	2.35	55.40	57.17	4.06	0.166	0.168	3.92
88( 8)	9.76	9.56	2.18	55.30	56.36	3.05	0.176	0.170	3.45
89(寛政 1)	9.66	9.57	2.22	55.77	55.88	1.21	0.173	0.171	2.27
90( 2)	9.55	9.63	0.99	55.95	56.56	2.44	0.171	0.170	3.17
1791( 3)	9.65	9.58	0.69	57.00	57.63	3.59	0.169	0.166	3.98
92( 4)	9.52	9.59	0.86	58.76	58.51	3.44	0.162	0.164	3.46
93( 5)	9.54	9.61	0.84	60.66	59.45	2.65	0.157	0.162	2.84
94( 6)	9.71	9.59	0.86	60.16	60.19	1.38	0.161	0.159	1.39
95( 7)	9.65	9.58	1.06	60.68	60.73	0.77	0.159	0.158	1.77
1796( 8)	9.55	9.57	1.18	60.68	60.90	0.96	0.157	0.157	2.11
97( 9)	9.45	9.42	2.65	61.46	61.29	0.99	0.154	0.154	3.54
98( 10)	9.47	9.38	2.31	61.54	61.52	0.86	0.154	0.152	3.01
99( 11)	9.00	9.35	2.12	62.09	61.70	0.41	0.145	0.152	2.48
1800( 12)	9.42	9.33	2.04	61.82	61.99	0.89	0.152	0.151	2.47



近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表1(その3) 大阪銭相場と大阪金相場の動向

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一両につき銀匁)			大阪銭相場/ 大阪金相場の比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数
1801 (享和 1)	9.42	9.31	1.89	61.59	62.38	1.28	0.153	0.149	2.28
02 ( 2)	9.35	9.34	1.05	62.90	62.75	1.64	0.149	0.149	2.60
03 ( 3)	9.35	9.24	2.36	63.50	63.35	1.91	0.147	0.146	4.12
04 (文化 1)	9.18	9.15	2.27	63.95	64.19	1.77	0.144	0.143	3.88
05 ( 2)	8.88	9.10	1.94	64.83	64.78	1.64	0.137	0.141	3.28
1806 ( 3)	9.01	9.10	1.80	65.79	65.33	1.41	0.137	0.139	2.03
07 ( 4)	9.10	9.12	1.99	65.85	65.43	1.13	0.138	0.139	2.13
08 ( 5)	9.31	9.20	1.50	66.21	65.18	1.70	0.141	0.141	2.79
09 ( 6)	9.28	9.25	0.95	64.48	64.83	1.77	0.144	0.143	2.30
10 ( 7)	9.31	9.28	0.28	63.59	64.53	1.55	0.146	0.144	1.45
1811 ( 8)	9.25	9.27	0.30	64.01	64.24	0.70	0.145	0.144	0.94
12 ( 9)	9.27	9.23	0.95	64.35	64.28	0.77	0.144	0.144	1.58
13 (10)	9.24	9.18	1.14	64.76	64.62	0.72	0.143	0.142	1.75
14 (11)	9.08	9.13	1.26	64.71	64.90	0.68	0.140	0.141	1.86
15 (12)	9.05	9.07	1.16	65.25	65.11	0.53	0.139	0.139	1.61
1816 (13)	9.02	9.01	0.60	65.44	64.69	1.82	0.138	0.139	1.70
17 (14)	8.96	8.97	0.81	65.38	63.74	3.76	0.137	0.141	3.16
18 (文政 1)	8.96	8.95	0.64	62.65	62.42	4.94	0.143	0.144	4.60
19 ( 2)	8.86	8.93	0.47	60.00	61.51	4.24	0.148	0.145	3.99
20 ( 3)	8.95	8.92	0.48	58.64	60.93	2.78	0.153	0.146	2.83
1821 ( 4)	8.94	8.93	0.69	60.87	61.23	3.50	0.147	0.146	3.25
22 ( 5)	8.89	9.00	1.39	62.47	61.91	3.55	0.142	0.146	3.20
23 ( 6)	9.02	9.23	5.46	64.15	63.04	2.25	0.141	0.146	4.43
24 ( 7)	9.21	9.35	5.20	63.40	63.74	1.27	0.145	0.147	4.44
25 ( 8)	10.11	9.48	4.38	64.32	64.16	0.71	0.157	0.148	4.09
1826 ( 9)	9.52	9.56	3.49	64.37	64.25	0.76	0.148	0.149	3.24
27 (10)	9.56	9.56	3.49	64.58	64.35	0.44	0.148	0.149	3.39
28 (11)	9.42	9.42	1.45	64.58	64.40	0.47	0.146	0.146	1.14
29 (12)	9.21	9.39	1.33	63.88	64.04	1.35	0.144	0.147	1.58
30 (天保 1)	9.39	9.34	0.93	64.58	63.64	1.59	0.145	0.147	1.65
1831 ( 2)	9.39	9.31	0.89	62.60	63.33	1.39	0.150	0.147	1.62
32 ( 3)	9.30	9.29	1.22	62.54	63.20	1.31	0.149	0.147	1.60
33 ( 4)	9.24	9.25	1.09	63.05	62.87	0.46	0.147	0.147	1.51
34 ( 5)	9.12	9.16	1.66	63.21	62.65	1.12	0.144	0.146	1.17
35 ( 6)	9.21	9.10	1.54	62.96	62.21	2.02	0.146	0.146	1.28

付表1(その4) 大阪銭相場と大阪金相場の動向

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場/ 大阪金相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数
1836 (天保 7)	8.91	9.02	1.61	61.47	61.53	2.54	0.145	0.147	1.46
37 ( 8)	9.00	8.97	1.62	60.34	60.76	2.42	0.149	0.148	1.32
38 ( 9)	8.86	8.94	1.05	59.67	60.52	1.76	0.148	0.148	1.25
39 (10)	8.87	8.98	1.29	59.37	60.68	2.10	0.149	0.148	0.91
40 (11)	9.08	9.05	2.23	61.76	61.36	2.99	0.147	0.148	0.88
1841 (12)	9.11	9.28	4.70	62.25	62.35	3.25	0.146	0.149	2.34
42 (13)	9.35	9.51	4.85	63.74	63.38	2.07	0.147	0.150	2.99
43 (14)	10.00	9.69	4.44	64.65	63.80	1.49	0.155	0.152	3.26
44 (弘化 1)	10.00	9.87	2.95	64.50	64.16	0.62	0.155	0.154	2.64
45 ( 2)	10.00	10.00	0.00	63.85	64.20	0.56	0.157	0.156	0.56
1846 ( 3)	10.00	10.00	0.00	64.08	64.01	0.48	0.156	0.156	0.48
47 ( 4)	10.00	10.00	0.00	63.91	63.83	0.28	0.156	0.157	0.28
48 (嘉永 1)	10.00	9.83	3.87	63.70	63.38	1.62	0.157	0.155	2.34
49 ( 2)	10.00	9.74	3.93	63.62	63.12	1.53	0.157	0.154	2.46
50 ( 3)	9.15	9.68	3.66	61.57	63.00	1.39	0.149	0.154	2.35
1851 ( 4)	9.55	9.64	3.34	62.81	63.34	2.19	0.152	0.152	2.12
52 ( 5)	9.68	9.64	3.29	63.31	64.04	3.44	0.153	0.151	1.29
53 ( 6)	9.83	9.87	3.05	65.39	65.62	4.21	0.150	0.151	1.28
54 (安政 1)	9.98	10.05	3.26	67.12	67.09	4.23	0.149	0.150	1.20
55 ( 2)	10.33	10.25	3.32	69.49	68.59	3.31	0.149	0.149	0.61
1856 ( 3)	10.45	0.43	2.81	70.14	70.01	2.81	0.149	0.149	0.67
57 ( 4)	10.66	10.56	1.54	70.83	71.34	2.46	0.151	0.148	1.54
58 ( 5)	10.71	10.75	2.87	72.49	72.12	2.19	0.148	0.149	2.29
59 ( 6)	10.65	10.96	3.61	73.77	72.58	1.56	0.144	0.151	3.62
60 (万延 1)	11.27	11.23	5.11	73.36	73.86	2.66	0.154	0.152	3.84
1861 (文久 1)	11.49	11.65	7.06	72.45	76.02	5.84	0.159	0.153	3.49
62 ( 2)	12.03	12.29	8.57	77.23	79.46	9.73	0.156	0.155	1.60
63 ( 3)	12.83	13.06	11.09	83.27	84.43	12.28	0.154	0.155	1.58
64 (元治 1)	13.84	13.61	8.84	91.00	93.19	16.21	0.152	0.148	9.58
65 (慶応 1)	15.11	14.02	5.85	98.22	105.60	21.25	0.154	0.137	17.50
1866 ( 2)	14.23			116.21			0.122		
67 ( 3)	14.11			139.31			0.101		

(出所) 大阪銭相場は、新保博『近世の物価と経済発展——前工業化社会への数量的接近——』(東洋経済新報社, 1978年), 171~176ページ。大阪金相場も、前掲新保『近世の物価と経済発展』, 30~37, 171~176ページ。なお、原資料は『大阪金銀米銭并為替日々相場表』など。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表2(その1) 大阪銭相場と大阪金相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場と大阪金相場の「5カ年移動相関係数」				
	各年値	5カ年移動平均	残差	各年値	5カ年移動平均	残差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均	
1733 (享保18)	12.00			60.10							
34 ( 19)											
35 ( 20)											
1736 (元文 1)	18.00			52.90							
37 ( 2)	17.70			53.50							
38 ( 3)	21.70										
39 ( 4)											
40 ( 5)											
1741 (寛保 1)											
42 ( 2)	15.80			62.20							
43 ( 3)											
44 (延享 1)	14.00			60.00							
45 ( 2)	13.50			62.00							
1746 ( 3)	13.45			62.96							
47 ( 4)	13.70			63.64							
48 (寛延 1)											
49 ( 2)											
50 ( 3)	3.72			58.72							
1751 (宝暦 1)	13.40			59.49							
52 ( 2)	13.00	13.41	-0.41	60.06	59.34	0.72	-0.94				
53 ( 3)	13.19	13.52	-0.33	59.43	59.63	-0.20	0.16				
54 ( 4)	13.73	13.72	0.01	59.00	60.08	-0.08	0.58	0.24	-0.05		
55 ( 5)	14.29	13.94	0.35	60.19	60.42	-0.23	0.71	0.46	0.14		
1756 ( 6)	14.39	14.11	0.28	61.70	60.76	0.94	0.68	0.59	0.37	0.29	
57 ( 7)	14.12	14.34	-0.22	61.76	61.26	0.50	0.15	0.65	0.34	0.41	
58 ( 8)	14.04	14.56	-0.52	61.15	61.92	-0.77	0.83	0.67	0.64	0.51	
59 ( 9)	14.85	14.75	0.10	61.51	62.37	-0.86	0.87	0.68	0.56	0.56	
60 ( 10)	15.40	15.00	0.40	63.49	62.45	1.04	0.80	0.69	0.62	0.64	
1761 ( 11)	15.36	15.26	0.10	63.92	62.73	1.19	0.74	0.51	0.63	0.68	
62 ( 12)	15.35	15.37	-0.02	62.20	62.91	-0.71	0.21	0.19	0.73	0.48	
63 ( 13)	15.34	15.37	-0.03	62.52	62.76	-0.24	-0.06	-0.15	0.83	0.19	
64 (明和 1)	15.40	15.35	0.05	62.40	62.69	-0.29	-0.74	-0.39	-0.43	-0.04	
65 ( 2)	15.38	15.34	0.04	62.75	62.87	-0.12	-0.88	-0.58	-0.83	-0.32	
1766 ( 3)	15.28	15.35	-0.07	63.57	63.12	0.45	-0.48	-0.75	-0.52	-0.62	

付表2(その2) 大阪銭相場と大阪金相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場と大阪金相場 の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均
1767 (明和 4)	15.31	15.24	0.07	63.10	63.49	-0.39	-0.71	-0.80	-0.67	-0.69
68 ( 5)	15.38	4.97	0.41	63.80	64.07	-0.27	-0.95	-0.83	-0.68	-0.63
69 ( 6)	14.87	4.58	0.29	64.21	64.74	-0.53	-0.98	-0.79	-0.76	-0.59
70 ( 7)	14.03	14.12	-0.09	65.65	65.65	0.00	-0.99	-0.51	-0.52	-0.35
1771 ( 8)	13.32	13.53	-0.21	66.92	65.75	1.17	-0.31	-0.14	-0.31	-0.28
72 (安永 1)	13.00	12.97	0.03	67.65	65.16	2.49	0.67	0.25	0.50	-0.17
73 ( 2)	12.43	12.57	-0.14	64.33	63.97	0.36	0.93	0.57	-0.30	-0.20
74 ( 3)	12.06	12.19	-0.13	61.24	62.45	-0.21	0.94	0.59	-0.24	-0.24
75 ( 4)	12.04	11.73	0.31	59.69	60.95	-0.26	0.62	0.28	-0.62	-0.48
1776 ( 5)	11.42	11.32	0.10	59.33	60.31	-0.98	-0.21	-0.06	-0.52	-0.54
77 ( 6)	10.71	10.90	-0.19	60.14	60.37	-0.23	-0.88	-0.17	-0.74	-0.63
78 ( 7)	10.36	10.45	-0.09	61.15	60.52	0.63	-0.76	-0.20	-0.57	-0.66
79 ( 8)	9.99	10.11	-0.12	61.53	60.13	1.40	0.36	-0.10	-0.69	-0.70
80 ( 9)	9.76	9.87	-0.11	60.43	60.09	0.34	0.48	0.02	-0.80	-0.64
1781 (天明 1)	9.75	9.72	0.03	57.40	59.91	-2.51	0.29	0.09	-0.70	-0.52
82 ( 2)	9.47	9.66	-0.19	59.93	59.60	0.33	-0.30	0.05	-0.43	-0.34
83 ( 3)	9.62	9.66	-0.04	60.25	59.51	0.74	-0.40	0.15	0.01	-0.02
84 ( 4)	9.72	9.63	0.09	59.99	59.91	0.08	0.19	0.19	0.21	0.22
85 ( 5)	9.75	9.58	0.17	60.00	59.01	0.99	0.96	0.32	0.82	0.40
1786 ( 6)	9.60	9.61	-0.01	59.40	58.02	1.38	0.49	0.43	0.50	0.48
87 ( 7)	9.21	9.60	-0.39	55.40	57.17	-1.77	0.35	0.44	0.49	0.57
88 ( 8)	9.76	9.56	0.20	55.30	56.36	-1.06	0.13	0.10	0.39	0.29
89 (寛政 1)	9.66	9.57	0.09	55.77	55.88	-0.11	0.24	-0.12	0.67	0.10
90 ( 2)	9.55	9.63	-0.08	55.95	56.56	-0.61	-0.70	-0.16	-0.61	-0.07
1791 ( 3)	9.65	9.58	0.07	57.00	57.63	-0.63	-0.61	-0.19	-0.43	-0.29
92 ( 4)	9.52	9.59	-0.07	58.76	58.51	0.25	0.13	-0.18	-0.37	-0.55
93 ( 5)	9.54	9.61	-0.07	60.66	59.45	1.21	-0.00	-0.21	-0.72	-0.56
94 ( 6)	9.71	9.59	0.12	60.16	60.19	-0.03	0.30	-0.28	-0.59	-0.41
95 ( 7)	9.65	9.58	0.07	60.68	60.73	-0.05	-0.89	-0.48	-0.68	-0.48
1796 ( 8)	9.55	9.57	0.02	60.68	60.90	-0.22	-0.94	-0.63	0.32	-0.48
97 ( 9)	9.45	9.42	0.03	61.46	61.29	0.17	-0.89	-0.87	-0.71	-0.49
98 ( 10)	9.47	9.38	0.09	61.54	61.52	0.02	-0.76	-0.76	-0.73	-0.50
99 ( 11)	9.00	9.35	-0.35	62.09	61.70	0.39	-0.88	-0.56	-0.67	-0.69
1800 ( 12)	9.42	9.33	0.09	61.82	61.99	-0.17	-0.31	-0.56	-0.70	-0.62

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表2(その3) 大阪銭相場と大阪金相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場と大阪金相場 の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均
1801 (享和 1)	9.42	9.31	0.11	61.59	62.38	-0.79	0.01	-0.58	-0.62	-0.55
02 ( 2)	9.35	9.34	0.01	62.90	62.75	0.15	-0.87	-0.58	-0.38	-0.45
03 ( 3)	9.35	9.24	0.11	63.50	63.35	0.15	-0.87	-0.64	-0.38	-0.33
04 (文化 1)	9.18	9.15	0.03	63.95	64.19	-.24	-0.85	-0.60	-0.16	-0.11
05 ( 2)	8.88	9.10	-0.22	64.83	64.78	0.05	-0.65	-0.39	-0.11	0.05
1806 ( 3)	9.01	9.10	-0.09	65.79	65.33	0.46	0.24	-0.32	0.47	0.14
07 ( 4)	9.10	9.12	-0.02	65.85	65.43	0.42	0.17	-0.22	.40	0.27
08 ( 5)	9.31	9.20	0.11	66.21	65.18	1.03	-0.49	-0.02	0.10	0.44
09 ( 6)	9.28	9.25	0.03	64.48	64.83	-0.35	-0.39	-0.20	0.49	0.41
10 ( 7)	9.31	9.28	0.03	63.59	64.53	-0.94	0.38	-0.37	0.74	0.37
1811 ( 8)	9.25	9.27	-0.02	64.01	64.24	-0.23	-0.70	-0.43	0.33	0.49
12 ( 9)	9.27	9.23	0.04	64.35	64.28	0.07	-0.68	-0.52	0.18	0.44
13 (10)	9.24	9.18	0.06	64.76	64.62	0.14	-0.77	-0.75	0.68	0.31
14 (11)	9.08	9.13	-0.05	64.71	64.90	-0.19	-0.84	-0.53	0.26	0.33
15 (12)	9.05	9.07	-0.02	65.25	65.11	0.14	-0.77	-0.22	0.09	0.45
1816 (13)	9.02	9.01	0.01	65.44	64.69	0.75	0.39	0.06	0.44	0.34
17 (14)	8.96	8.97	-0.01	65.38	63.74	1.64	0.88	0.32	0.78	0.29
18 (文政 1)	8.96	8.95	0.01	62.65	62.42	0.23	0.65	0.48	0.10	0.20
19 ( 2)	8.86	8.93	-0.07	60.00	61.51	-1.51	0.44	0.49	0.04	-0.05
20 ( 3)	8.95	8.92	0.03	58.64	60.93	-2.29	0.03	0.41	-0.38	-0.37
1821 ( 4)	8.94	8.93	0.01	60.87	61.23	-0.36	0.46	0.40	-0.79	-0.44
22 ( 5)	8.89	9.00	-0.11	62.47	61.91	0.56	0.47	0.45	-0.82	-0.50
23 ( 6)	9.02	9.23	-0.21	64.15	63.04	1.11	0.60	0.53	-0.23	-0.47
24 ( 7)	9.21	9.35	-0.14	63.40	63.74	-0.34	0.66	0.53	-0.26	-0.23
25 ( 8)	10.11	9.48	0.63	64.32	64.16	0.16	0.47	.49	-0.22	0.01
1826 ( 9)	9.52	9.56	-0.04	64.37	64.25	0.12	0.44	0.53	0.38	0.22
27 (10)	9.56	9.56	-0.00	64.58	64.35	0.23	0.30	0.46	0.41	0.29
28 (11)	9.42	9.42	0.00	64.58	64.40	0.18	0.76	0.41	0.81	0.34
29 (12)	9.21	9.39	-0.18	63.88	64.04	-0.16	0.32	0.33	0.07	0.26
30 (天保 1)	9.39	9.34	0.05	64.58	63.64	0.94	0.24	0.31	0.01	0.10
1831 ( 2)	9.39	9.31	0.08	62.60	63.33	-0.73	0.05	-0.02	-0.00	-0.07
32 ( 3)	9.30	9.29	0.01	62.54	63.20	-0.66	0.21	0.06	-0.37	-0.01
33 ( 4)	9.24	9.25	-0.01	63.05	62.87	.18	-0.89	0.17	-0.05	0.07
34 ( 5)	9.12	9.16	-0.04	63.21	62.65	0.56	0.71	0.33	0.37	0.17
35 ( 6)	9.21	9.10	0.11	62.96	62.21	0.75	0.78	0.46	0.39	0.40

付表2(その4) 大阪銭相場と大阪金相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪金相場 (金一兩につき銀匁)			大阪銭相場と大阪金相場 の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均
1836 (天保 7)	8.91	9.02	-0.11	61.47	61.53	-0.06	0.85	0.78	0.54	0.53
37 ( 8)	9.00	8.97	0.03	60.34	60.76	-0.42	0.86	0.83	0.75	0.53
38 ( 9)	8.86	8.94	-0.08	59.67	60.52	-0.85	0.71	0.87	0.58	0.49
39 (10)	8.87	8.98	-0.11	59.37	60.68	-1.31	0.97	0.88	0.40	0.50
40 (11)	9.08	9.05	0.03	61.76	61.36	0.40	0.99	0.89	0.17	0.51
1841 (12)	9.11	9.28	-0.17	62.25	62.35	-0.10	0.88	0.93	0.58	0.53
42 (13)	9.35	9.51	-0.16	63.74	63.38	0.36	0.93	0.85	0.83	0.56
43 (14)	10.00	9.69	0.31	64.65	63.80	0.85	0.86		0.65	0.71
44 (弘化 1)	0.00	9.87	0.13	64.50	64.16	0.34	0.60		0.58	0.75
45 ( 2)	10.00	10.00	0.00	63.85	64.20	-0.35			0.92	0.75
1846 ( 3)	10.00	10.00	0.00	64.08	64.01	0.07			0.77	0.82
47 ( 4)	10.00	10.00	0.00	63.91	63.83	0.08			0.84	0.90
48 (嘉永 1)	10.00	9.83	0.17	63.70	63.38	0.32	0.98		0.99	0.90
49 ( 2)	10.00	9.74	0.26	63.62	63.12	0.50	0.99		0.99	0.93
50 ( 3)	9.15	9.68	-0.53	61.57	63.00	-1.43	0.97	0.93	0.92	0.91
1851 ( 4)	9.55	9.64	-0.09	62.81	63.34	-0.53	0.79	.93	0.91	0.81
52 ( 5)	9.68	9.64	0.04	63.31	64.04	-0.73	0.93	0.93	0.76	0.68
53 ( 6)	9.83	9.87	-0.04	65.39	65.62	-0.23	0.99	0.93	0.46	0.53
54 (安政 1)	9.98	10.05	-0.07	67.12	67.09	0.03	0.99	0.97	0.34	0.33
55 ( 2)	0.33	10.25	0.08	69.49	68.59	0.90	0.98	0.94	0.16	0.05
1856 ( 3)	10.45	10.43	0.02	70.14	70.01	0.13	0.97	0.87	-0.06	-0.24
57 ( 4)	10.66	10.56	0.10	70.83	71.34	-0.51	0.79	0.71	-0.68	-0.32
58 ( 5)	0.71	10.75	-0.04	72.49	72.12	0.37	0.60	0.65	-0.94	-0.34
59 ( 6)	0.65	10.96	-0.31	73.77	72.58	1.19	0.20	0.63	-0.07	-0.35
60 (万延 1)	11.27	11.23	0.04	73.36	73.86	-0.50	0.68	0.67	0.07	-0.18
1861 (文久 1)	11.49	11.65	-0.16	72.45	76.02	-3.57	0.88	0.75	-0.11	-0.16
62 ( 2)	12.03	12.29	-0.26	77.23	79.46	-2.23	0.99	0.86	0.17	
63 ( 3)	12.83	13.06	-0.23	83.27	84.43	-1.16	1.00	0.79	-0.88	
64 (元治 1)	13.84	13.61	0.23	91.00	93.19	-2.19	0.75			
65 (慶応 1)	15.11	14.02	1.09	98.22	105.60	-7.38	0.36			
1866 ( 2)	14.23			116.21						
67 ( 3)	14.11			139.31						

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表3(その1) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の動向

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一両につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場/ 江戸銀相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動 平均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動 平均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動 平均	5カ年 移動変 動係数
1733 (享保18)	11.84			59.45			0.199		
34 ( 19)									
35 ( 20)									
1736 (元文 1)	20.58			58.45			0.352		
37 ( 2)	7.34			52.20			0.332		
38 ( 3)	19.41	19.49	6.83	55.50	56.72	5.11	0.350	0.344	3.49
39 ( 4)	20.62	18.76	8.38	58.15	57.17	5.90	0.355	0.329	9.17
40 ( 5)	19.51	18.47	0.70	59.30	59.22	4.44	0.329	0.313	14.21
1741 (寛保 1)	16.91	17.58	3.62	60.70	60.45	2.88	0.279	0.292	16.47
42 ( 2)	15.90	16.41	11.76	62.45	61.15	1.97	0.255	0.269	13.72
43 ( 3)	14.99	15.47	5.99	61.65	61.68	1.03	0.243	0.251	6.64
44 (延享 1)	14.74	14.85	5.00	61.63	62.15	0.97	0.239	0.239	5.36
45 ( 2)	14.82	14.36	4.80	61.95	62.90	3.08	0.239	0.229	7.51
1746 ( 3)	13.81	14.12	4.40	63.05	63.20	2.86	0.219	0.224	6.92
47 ( 4)	13.44	13.92	3.78	66.20	62.94	3.41	0.203	0.221	6.00
48 (寛延 1)	13.79	13.67	1.12	63.15	62.40	4.36	0.218	0.220	4.76
49 ( 2)	13.72	13.63	0.99	60.35	61.75	4.71	0.227	0.221	4.99
50 ( 3)	13.61	13.64	0.85	59.25	60.45	2.58	0.230	0.226	1.91
1751 (宝暦 1)	13.60	13.62	0.62	59.78	59.79	0.65	0.228	0.228	0.59
52 ( 2)	13.50	13.66	1.15	59.73	59.63	0.41	0.226	0.229	1.28
53 ( 3)	13.67	13.82	2.59	59.85	59.65	0.33	0.228	0.232	2.90
54 ( 4)	13.92	14.10	4.33	59.53	60.03	1.56	0.234	0.235	3.37
55 ( 5)	14.40	14.30	3.66	59.38	60.41	1.88	0.242	0.237	2.63
1756 ( 6)	15.01	14.39	2.88	61.68	60.63	1.83	0.243	0.237	2.20
57 ( 7)	14.50	14.39	2.84	61.60	60.99	1.55	0.235	0.236	2.91
58 ( 8)	14.13	14.49	3.21	60.95	61.85	1.73	0.232	0.234	2.51
59 ( 9)	13.94	14.55	3.79	61.33	62.18	2.00	0.227	0.234	2.21
60 ( 10)	14.89	14.70	4.30	63.70	62.30	1.93	0.234	0.236	3.09
1761 ( 11)	15.29	14.95	4.01	63.33	62.71	1.51	0.241	0.238	3.24
62 ( 12)	15.25	15.27	1.54	62.20	62.99	0.91	0.245	0.242	2.18
63 ( 13)	15.41	15.44	1.24	62.98	62.94	0.81	0.245	0.245	1.03
64 (明和 1)	15.51	15.54	1.44	62.73	63.02	0.96	0.247	0.247	0.61
65 ( 2)	15.72	15.59	1.05	63.48	63.31	0.69	0.248	0.246	0.78
1766 ( 3)	15.79	15.49	2.30	63.73	63.46	0.66	0.248	0.244	2.48

付表3(その2) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の動向

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一両につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場/ 江戸銀相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数
1767(明和 4)	15.51	15.08	6.41	63.63	63.61	0.20	0.244	0.237	6.34
68( 5)	14.89	14.43	9.77	63.73	64.12	1.67	0.234	0.225	10.88
69( 6)	13.47	13.80	9.78	63.48	64.96	3.02	0.212	0.213	12.13
70( 7)	12.48	13.26	7.45	66.03	66.23	4.20	0.189	0.201	10.82
1771( 8)	12.64	12.72	3.74	67.93	66.44	3.88	0.186	0.192	6.12
72(安永 1)	12.80	12.29	4.67	70.00	66.14	4.63	0.183	0.186	1.54
73( 2)	12.20	12.07	5.71	64.78	64.99	6.21	0.188	0.186	1.46
74( 3)	11.35	11.79	5.82	61.95	63.40	6.54	0.183	0.186	1.49
75( 4)	11.36	11.31	5.65	60.28	61.26	3.59	0.188	0.184	2.99
1776( 5)	11.23	10.95	4.52	60.00	60.56	1.75	0.187	0.181	4.35
77( 6)	10.40	10.70	5.29	59.28	60.47	1.53	0.175	0.177	6.07
78( 7)	10.43	10.36	5.46	61.30	60.28	1.77	0.170	0.172	5.70
79( 8)	10.07	9.95	5.33	61.50	60.00	2.18	0.164	0.166	4.39
80( 9)	9.70	9.84	4.75	59.30	60.03	2.14	0.164	0.164	3.07
1781(天明 1)	9.16	9.91	5.89	58.63	59.84	1.85	0.156	0.166	4.87
82( 2)	9.87	9.92	5.92	59.43	59.36	1.04	0.166	0.167	4.97
83( 3)	10.76	9.77	7.49	60.33	58.84	2.29	0.178	0.166	5.54
84( 4)	10.12	9.83	6.96	59.13	58.15	3.68	0.171	0.169	4.45
85( 5)	8.96	9.97	7.67	56.70	57.65	3.57	0.158	0.173	6.01
1786( 6)	9.43	9.74	6.45	55.18	56.72	2.68	0.171	0.172	5.78
87( 7)	10.59	9.68	6.17	56.90	56.06	1.29	0.186	0.173	5.84
88( 8)	9.60	9.77	4.94	55.70	55.89	1.12	0.172	0.175	3.91
89(寛政 1)	9.82	9.99	5.31	55.82	56.45	1.73	0.176	0.177	3.92
90( 2)	9.42	10.02	5.72	55.85	56.75	2.34	0.169	0.176	3.50
1791( 3)	10.51	10.31	6.60	57.97	57.72	3.41	0.181	0.179	3.54
92( 4)	10.73	10.46	5.99	58.42	58.67	3.37	0.184	0.178	3.64
93( 5)	11.09	10.46	6.05	60.52	59.41	2.01	0.183	0.176	6.12
94( 6)	10.58	10.13	9.36	60.60	60.03	1.78	0.175	0.169	9.99
95( 7)	9.40	9.96	8.94	59.52	60.65	1.24	0.158	0.164	9.07
1796( 8)	8.87	9.69	6.49	61.10	60.96	1.59	0.145	0.159	6.62
97( 9)	9.86	9.60	5.01	61.52	61.83	3.21	0.160	0.155	3.78
98( 10)	9.74	9.68	4.92	62.07	62.58	2.48	0.157	0.155	3.66
99( 11)	10.11	9.78	2.74	64.95	62.45	2.76	0.156	0.157	1.33
1800( 12)	9.84	9.73	2.88	63.25	62.79	2.65	0.156	0.155	1.36



近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表3(その3) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の動向

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一両につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場/ 江戸銀相場比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数	各年値	5カ年 移動平均	5カ年 移動変動係数
1801 (享和 1)	9.37	9.68	3.06	60.45	63.12	2.62	0.155	0.153	1.95
02 ( 2)	9.57	9.56	1.78	63.22	62.94	2.28	0.151	0.152	2.10
03 ( 3)	9.50	9.53	1.12	63.75	63.26	2.66	0.149	0.151	1.76
04 (文化 1)	9.53	9.70	3.04	64.05	64.40	1.77	0.149	0.151	1.58
05 ( 2)	9.66	9.79	3.22	64.85	65.01	1.79	0.149	0.151	1.58
1806 ( 3)	10.21	9.88	2.78	66.15	65.50	1.53	0.154	0.151	1.49
07 ( 4)	10.03	9.81	3.90	66.27	65.16	2.60	0.151	0.151	1.61
08 ( 5)	9.94	9.71	5.05	66.20	64.72	3.16	0.150	0.150	2.15
09 ( 6)	9.23	9.53	4.44	62.32	64.24	2.95	0.148	0.148	1.68
10 ( 7)	9.14	9.37	3.48	62.65	63.79	2.39	0.146	0.147	1.56
1811 ( 8)	9.30	9.35	3.07	63.77	63.58	1.78	0.146	0.147	1.84
12 ( 9)	9.24	9.43	3.17	64.00	64.08	1.54	0.144	0.147	1.86
13 (10)	9.86	9.58	3.23	65.15	64.60	1.05	0.151	0.148	2.22
14 (11)	9.62	9.66	2.73	64.85	64.99	0.98	0.148	0.149	2.10
15 (12)	9.91	9.71	1.69	65.25	65.19	0.51	0.152	0.149	1.66
1816 (13)	9.65	9.58	2.70	65.72	64.71	1.77	0.147	0.148	1.54
17 (14)	9.52	9.35	6.00	64.97	63.28	5.23	0.147	0.148	1.60
18 (文政 1)	9.19	9.11	5.63	62.75	62.02	5.76	0.147	0.147	0.42
19 ( 2)	8.45	9.06	5.03	57.72	61.44	4.91	0.146	0.147	0.91
20 ( 3)	8.72	9.04	4.85	58.92	61.05	4.14	0.148	0.148	1.12
1821 ( 4)	9.40	9.18	6.27	62.85	61.49	4.94	0.150	0.149	1.37
22 ( 5)	9.45	9.40	4.48	63.00	62.61	3.56	0.150	0.150	0.99
23 ( 6)	9.86	9.62	2.25	64.95	63.81	1.62	0.152	0.151	0.67
24 ( 7)	9.57	9.71	1.94	63.35	64.19	1.46	0.151	0.151	0.51
25 ( 8)	9.84	9.78	1.23	64.90	64.45	1.03	0.152	0.152	0.29
1826 ( 9)	9.83	9.76	1.14	64.75	64.30	0.94	0.152	0.152	0.33
27 (10)	9.79	9.83	0.60	64.30	64.53	0.46	0.152	0.152	0.56
28 (11)	9.77	9.84	0.61	64.20	64.46	0.34	0.152	0.153	0.50
29 (12)	9.93	9.78	1.34	64.52	64.09	1.07	0.154	0.153	0.45
30 (天保 1)	9.85	9.72	1.92	64.55	63.71	1.56	0.153	0.153	0.48
1831 ( 2)	9.58	9.69	1.97	62.90	63.39	1.67	0.152	0.153	0.50
32 ( 3)	9.49	9.62	1.43	62.40	63.12	1.35	0.152	0.152	0.37
33 ( 4)	9.60	9.54	0.77	62.60	62.72	0.48	0.153	0.152	0.57
34 ( 5)	9.60	9.58	1.37	63.15	62.45	0.93	0.152	0.153	2.06
35 ( 6)	9.44	9.61	1.25	62.55	62.08	1.66	0.151	0.155	2.47

付表3(その4) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の動向

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一兩につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場/ 江戸銀相対比(単位 1)		
	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数	各年値	5カ年 移動平 均	5カ年 移動変 動係数
1836 (天保 7)	9.78	9.49	3.04	61.55	61.64	1.96	0.159	0.154	2.95
37 ( 8)	9.62	9.35	4.20	60.55	61.09	1.55	0.159	0.153	3.68
38 ( 9)	9.02	9.26	4.41	60.40	61.08	1.52	0.149	0.152	4.48
39 (10)	8.86	9.10	3.27	60.40	61.32	1.95	0.147	0.149	4.22
40 (11)	9.04	9.06	2.14	62.50	62.02	2.57	0.145	0.146	1.63
1841 (12)	8.98	9.25	5.05	62.75	62.96	2.82	0.143	0.147	2.82
42 (13)	9.38	9.48	5.35	64.05	63.90	1.95	0.146	0.148	3.47
43 (14)	10.02	9.67	4.87	65.10	64.35	1.54	0.154	0.150	3.41
44 (弘化 1)	10.02	9.86	2.76	65.10	64.71	0.67	0.154	0.152	2.18
45 ( 2)	9.96	9.96	0.58	64.73	64.74	0.58	0.154	0.154	0.00
1846 ( 3)	9.93	9.92	0.79	64.56	64.47	0.79	0.154	0.154	0.00
47 ( 4)	9.88	9.89	0.62	64.22	64.25	0.62	0.154	0.154	0.00
48 (嘉永 1)	9.81	9.81	1.43	63.76	63.75	1.43	0.154	0.154	0.00
49 ( 2)	9.85			64.00			0.154		
50 ( 3)	9.57			62.20			0.154		
1851 ( 4)									
52 ( 5)	10.03			62.85			0.160		
53 ( 6)	10.38			65.10			0.159		
54 (安政 1)	10.61	10.42	2.33	66.30	66.66	4.35	0.160	0.157	2.80
55 ( 2)	10.63	10.54	1.07	69.80	68.23	3.52	0.152	0.155	3.07
1856 ( 3)	10.47	10.57	0.66	69.25	69.33	2.59	0.151	0.153	2.86
57 ( 4)	10.61	10.56	0.63	70.70	70.37	1.23	0.150	0.150	1.13
58 ( 5)	10.53	10.65	2.20	70.60	70.89	1.65	0.149	0.150	1.21
59 ( 6)	10.58	10.79	2.73	71.50	71.76	1.75	0.148	0.150	1.24
60 (万延 1)	11.06	11.03	4.80	72.40	73.57	4.93	0.153	0.150	1.37
1861 (文久 1)	11.15	11.29	4.80	73.60	75.33	5.24	0.152	0.150	1.37
62 ( 2)	11.84	11.70	5.42	79.75	77.99	6.47	0.148	0.150	1.25
63 ( 3)	11.84			79.40	81.62	7.81	0.149		
64 (元治 1)	12.62			84.78	86.49	9.08	0.149		
65 (慶応 1)				90.55	88.52	7.83			
1866 ( 2)				97.95					
67 ( 3)	10.83			89.90			0.121		

(出所) 江戸銭相場および銀相場は、新保博『近世の物価と経済発展——前工業化社会への数量的接近——』(東洋経済新報社, 1978年), 171~176ページ。なお, 原資料は『新稿両替年代記關鍵』巻1, 資料編。

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表4(その1) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の相関係数

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一兩につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場と江戸銀 相場の「5カ年移動相関係数」				
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均	
1733 (享保18)	11.84			59.45							
34 ( 19)											
35 ( 20)											
1736 (元文 1)	20.58			58.45							
37 ( 2)	17.34			52.20							
38 ( 3)	19.41	19.49	-0.09	55.50	56.72	-1.22	0.87				
39 ( 4)	20.62	18.76	1.86	58.15	57.17	0.98	0.13				
40 ( 5)	19.51	18.47	1.04	59.30	59.22	0.08	-0.79	-0.32	0.17		
1741 (寛保 1)	16.91	17.58	-0.68	60.70	60.45	0.25	-0.95	-0.60	0.17		
42 ( 2)	15.90	16.41	-0.51	62.45	61.15	1.30	-0.87	-0.69	-0.28	-0.30	
43 ( 3)	14.99	15.47	-0.48	61.65	61.68	-0.03	-0.51	-0.72	-0.76	-0.45	
44 (延享 1)	14.74	14.85	-0.11	61.63	62.15	-0.52	-0.35	-0.70	-0.78	-0.62	
45 ( 2)	14.82	14.36	0.46	61.95	62.90	-0.95	-0.90	-0.61	-0.60	-0.70	
1746 ( 3)	13.81	14.12	-0.31	63.05	63.20	-0.15	-0.85	-0.58	-0.67	-0.69	
47 ( 4)	13.44	13.92	-0.48	66.20	62.94	3.26	-0.44	-0.59	-0.71	-0.69	
48 (寛延 1)	13.79	13.67	0.12	63.15	62.40	0.75	-0.35	-0.25	-0.68	-0.58	
49 ( 2)	13.72	13.63	0.09	60.35	61.75	-1.40	-0.40	0.04	-0.80	-0.60	
50 ( 3)	13.61	13.64	-0.04	59.25	60.45	-1.20	0.80	0.09	-0.02	-0.53	
1751 (宝暦 1)	13.60	13.62	-0.02	59.78	59.79	-0.01	0.57	-0.02	-0.79	-0.52	
52 ( 2)	13.50	13.66	-0.16	59.73	59.63	0.10	-0.18	0.20	-0.35	-0.24	
53 ( 3)	13.67	13.82	-0.15	59.85	59.65	0.20	-0.90	0.19	-0.64	-0.12	
54 ( 4)	13.92	14.10	-0.18	59.53	60.03	-0.50	0.72	0.20	0.57	0.19	
55 ( 5)	14.40	14.30	0.10	59.38	60.41	-1.03	0.73	0.28	0.60	0.42	
1756 ( 6)	15.01	14.39	0.62	61.68	60.63	1.05	0.64	0.59	0.78	0.72	
57 ( 7)	14.50	14.39	0.11	61.60	60.99	0.61	0.22	0.62	0.77	0.79	
58 ( 8)	14.13	14.49	-0.37	60.95	61.85	-0.90	0.63	0.63	0.89	0.82	
59 ( 9)	13.94	14.55	-0.61	61.33	62.18	-0.85	0.89	0.63	0.90	0.82	
60 ( 10)	14.89	14.70	0.19	63.70	62.30	1.40	0.77	0.47	0.78	0.81	
1761 ( 11)	15.29	14.95	0.33	63.33	62.71	0.62	0.66	0.46	0.74	0.79	
62 ( 12)	15.25	15.27	-0.02	62.20	62.99	-0.79	-0.58	0.47	0.73	0.75	
63 ( 13)	15.41	15.44	-0.03	62.98	62.94	0.04	0.56	0.45	0.81	0.69	
64 (明和 1)	15.51	15.54	-0.03	62.73	63.02	-0.29	0.95	0.29	0.67	0.55	
65 ( 2)	15.72	15.59	0.14	63.48	63.31	0.17	0.67	0.49	0.51	0.55	
1766 ( 3)	15.79	15.49	0.31	63.73	63.46	0.27	-0.14	0.23	0.01	0.47	

付表4(その2) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の相関係数

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一兩につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場と江戸銀 相場の「5カ年移動相関係数」				
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均	
1767(明和4)	15.51	15.08	0.43	63.63	63.61	0.02	0.41	-0.11	0.76	0.37	
68(5)	14.89	14.43	0.46	63.73	64.12	-0.39	-0.72	-0.37	0.40	0.37	
69(6)	13.47	13.80	-0.33	63.48	64.96	-1.48	-0.75	-0.39	0.15	0.51	
70(7)	12.48	13.26	-0.77	66.03	66.23	-0.20	-0.66	-0.28	0.54	0.51	
1771(8)	12.64	12.72	-0.08	67.93	66.44	1.49	-0.23	0.06	0.71	0.58	
72(安永1)	12.80	12.29	0.50	70.00	66.14	3.86	0.95	0.40	0.75	0.71	
73(2)	12.20	12.07	0.13	64.78	64.99	-0.21	0.97	0.71	0.78	0.77	
74(3)	11.35	11.79	-0.44	61.95	63.40	-1.45	0.98	0.81	0.76	0.74	
75(4)	11.36	11.31	0.05	60.28	61.26	-0.98	0.89	0.54	0.86	0.67	
1776(5)	11.23	10.95	0.27	60.00	60.56	-0.56	0.28	0.35	0.55	0.61	
77(6)	10.40	10.70	-0.30	59.28	60.47	-1.19	-0.43	0.28	0.38	0.63	
78(7)	10.43	10.36	0.06	61.30	60.28	1.02	0.03	0.28	0.51	0.62	
79(8)	10.07	9.95	0.12	61.50	60.00	1.50	0.62	0.35	0.83	0.68	
80(9)	9.70	9.84	-0.15	59.30	60.03	-0.73	0.88	0.62	0.85	0.79	
1781(天明1)	9.16	9.91	-0.75	58.63	59.84	-1.21	0.66	0.79	0.84	0.89	
82(2)	9.87	9.92	-0.05	59.43	59.36	0.07	0.92	0.83	0.95	0.89	
83(3)	10.76	9.77	0.99	60.33	58.84	1.49	0.89	0.79	0.97	0.89	
84(4)	10.12	9.83	0.29	59.13	58.15	0.98	0.82	0.75	0.85	0.88	
85(5)	8.96	9.97	-1.01	56.70	57.65	-0.95	0.66	0.62	0.85	0.85	
1786(6)	9.43	9.74	-0.31	55.18	56.72	-1.54	0.44	0.63	0.78	0.83	
87(7)	10.59	9.68	0.90	56.90	56.06	0.84	0.30	0.64	0.80	0.85	
88(8)	9.60	9.77	-0.17	55.70	55.89	-0.19	0.91	0.70	0.86	0.84	
89(寛政1)	9.82	9.99	-0.16	55.82	56.45	-0.63	0.86	0.80	0.96	0.87	
90(2)	9.42	10.02	-0.60	55.85	56.75	-0.90	0.97	0.91	0.81	0.89	
1791(3)	10.51	10.31	0.19	57.97	57.72	0.25	0.95	0.75	0.91	0.91	
92(4)	10.73	10.46	0.26	58.42	58.67	-0.25	0.85	0.52	0.92	0.84	
93(5)	11.09	10.46	0.63	60.52	59.41	1.11	0.13	0.32	0.94	0.81	
94(6)	10.58	10.13	0.45	60.60	60.03	0.57	-0.30	0.14	0.64	0.70	
95(7)	9.40	9.96	-0.56	59.52	60.65	-1.13	-0.05	0.10	0.63	0.61	
1796(8)	8.87	9.69	-0.82	61.10	60.96	0.14	0.05	0.22	0.36	0.48	
97(9)	9.86	9.60	0.26	61.52	61.83	-0.31	0.67	0.45	0.46	0.53	
98(10)	9.74	9.68	0.06	62.07	62.58	-0.51	0.72	0.64	0.30	0.60	
99(11)	10.11	9.78	0.33	64.95	62.45	2.50	0.89	0.78	0.88	0.72	
1800(12)	9.84	9.73	0.11	63.25	62.79	0.46	0.88	0.75	0.97	0.81	

近世後期における大阪と江戸の銭相場

付表4(その3) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の相関係数

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一兩につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場と江戸銀 相場の「5カ年移動相関係数」				
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均	
1801 (享和 1)	9.37	9.68	-0.31	60.45	63.12	-2.67	0.77	0.79	0.97	0.93	
02 ( 2)	9.57	9.56	0.01	63.22	62.94	0.28	0.49	0.79	0.90	0.92	
03 ( 3)	9.50	9.53	-0.03	63.75	63.26	0.49	0.90	0.81	0.94	0.89	
04 (文化 1)	9.53	9.70	-0.16	64.05	64.40	-0.35	0.91	0.84	0.83	0.87	
05 ( 2)	9.66	9.79	-0.12	64.85	65.01	-0.16	0.96	0.93	0.83	0.87	
1806 ( 3)	10.21	9.88	0.34	66.15	65.50	0.65	0.92	0.94	0.84	0.87	
07 ( 4)	10.03	9.81	0.21	66.27	65.16	1.11	0.96	0.96	0.90	0.90	
08 ( 5)	9.94	9.71	0.23	66.20	64.72	1.48	0.97	0.95	0.94	0.92	
09 ( 6)	9.23	9.53	-0.30	62.32	64.24	-1.92	0.97	0.93	0.98	0.91	
10 ( 7)	9.14	9.37	-0.23	62.65	63.79	-1.14	0.92	0.92	0.93	0.89	
1811 ( 8)	9.30	9.35	-0.06	63.77	63.58	0.19	0.83	0.92	0.81	0.84	
12 ( 9)	9.24	9.43	-0.19	64.00	64.08	-0.08	0.91	0.88	0.79	0.74	
13 (10)	9.86	9.58	0.27	65.15	64.60	0.55	0.97	0.74	0.71	0.61	
14 (11)	9.62	9.66	-0.03	64.85	64.99	-0.14	0.76	0.74	0.46	0.53	
15 (12)	9.91	9.71	0.20	65.25	65.19	0.06	0.21	0.75	0.28	0.56	
1816 (13)	9.65	9.58	0.07	65.72	64.71	1.01	0.84	0.75	0.42	0.62	
17 (14)	9.52	9.35	0.17	64.97	63.28	1.69	0.97	0.80	0.94	0.73	
18 (文政 1)	9.19	9.11	0.09	62.75	62.02	0.73	1.00	0.95	1.00	0.87	
19 ( 2)	8.45	9.06	-0.60	57.72	61.44	-3.72	0.98	0.99	0.99	0.99	
20 ( 3)	8.72	9.04	-0.33	58.92	61.05	-2.13	0.98	0.99	1.00	1.00	
1821 ( 4)	9.40	9.18	0.22	62.85	61.49	1.36	1.00	0.99	1.00	1.00	
22 ( 5)	9.45	9.40	0.05	63.00	62.61	0.39	1.00	0.99	1.00	0.99	
23 ( 6)	9.86	9.62	0.23	64.95	63.81	1.14	0.99	0.99	0.99	0.99	
24 ( 7)	9.57	9.71	-0.14	63.35	64.19	-0.84	1.00	0.99	0.99	0.99	
25 ( 8)	9.84	9.78	0.06	64.90	64.45	0.45	0.98	0.88	0.99	0.98	
1826 ( 9)	9.83	9.76	0.07	64.75	64.30	0.45	0.97	0.80	1.00	0.97	
27 (10)	9.79	9.83	-0.04	64.30	64.53	-0.23	0.46	0.79	0.92	0.96	
28 (11)	9.77	9.84	-0.06	64.20	64.46	-0.26	0.57	0.79	0.93	0.96	
29 (12)	9.93	9.78	0.14	64.52	64.09	0.43	0.95	0.79	0.96	0.94	
30 (天保 1)	9.85	9.72	0.13	64.55	63.71	0.84	0.98	0.89	0.97	0.93	
1831 ( 2)	9.58	9.69	-0.11	62.90	63.39	-0.49	0.98	0.91	0.93	0.80	
32 ( 3)	9.49	9.62	-0.14	62.40	63.12	-0.72	0.97	0.61	0.85	0.60	
33 ( 4)	9.60	9.54	0.06	62.60	62.72	-0.12	0.67	0.33	0.29	0.26	
34 ( 5)	9.60	9.58	0.02	63.15	62.45	0.70	-0.57	0.21	-0.01	0.05	
35 ( 6)	9.44	9.61	-0.17	62.55	62.08	0.47	-0.41	0.12	-0.76	-0.09	

付表4(その4) 江戸匁建換算銭相場と江戸銀相場の相関係数

年次	江戸匁建換算銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			江戸銀相場 (金一両につき銀匁)			江戸匁建換算銭相場と江戸銀 相場の「5カ年移動相関係数」				
	各年値	5カ年 移動 平均	残差	各年値	5カ年 移動 平均	残差	単純 相関 係数	5カ年 移動 平均	残差 相関 係数	5カ年 移動 平均	
1836 (天保 7)	9.78	9.49	0.29	61.55	61.64	-0.09	0.38	0.00	-0.12	-0.07	
37 ( 8)	9.62	9.35	0.28	60.55	61.09	-0.54	0.50	0.07	0.17	-0.02	
38 ( 9)	9.02	9.26	-0.24	60.40	61.08	-0.68	0.11	0.30	0.39	0.30	
39 (10)	8.86	9.10	-0.25	60.40	61.32	-0.92	-0.25	0.41	0.20	0.48	
40 (11)	9.04	9.06	-0.02	62.50	62.02	0.48	0.78	0.50	0.84	0.64	
1841 (12)	8.98	9.25	-0.28	62.75	62.96	-0.21	0.88	0.67	0.82	0.75	
42 (13)	9.38	9.48	-0.11	64.05	63.90	0.15	0.98	0.90	0.93	0.89	
43 (14)	10.02	9.67	0.35	65.10	64.35	0.75	0.98	0.95	0.95	0.92	
44 (弘化 1)	10.02	9.86	0.16	65.10	64.71	0.39	0.91	0.97	0.91	0.95	
45 ( 2)	9.96	9.96	-0.00	64.73	64.74	-0.01	1.00	0.98	0.99		
1846 ( 3)	9.93	9.92	0.01	64.56	64.47	0.09	1.00	0.98	0.99		
47 ( 4)	9.88	9.89	-0.01	64.22	64.25	-0.03	1.00				
48 (嘉永 1)	9.81	9.81	0.00	63.76	63.75	0.01	1.00				
49 ( 2)	9.85			64.00							
50 ( 3)	9.57			62.20							
1851 ( 4)											
52 ( 5)	10.03			62.85							
53 ( 6)	10.38			65.10							
54 (安政 1)	10.61	10.42	0.19	66.30	66.66	-0.36	0.80				
55 ( 2)	10.63	10.54	0.09	69.80	68.23	1.57	0.57				
1856 ( 3)	10.47	10.57	-0.10	69.25	69.33	-0.08	-0.17	0.49	0.28		
57 ( 4)	10.61	10.56	0.04	70.70	70.37	0.33	0.42	0.52	0.87		
58 ( 5)	10.53	10.65	-0.12	70.60	70.89	-0.29	0.84	0.60	-0.10	0.37	
59 ( 6)	10.58	10.79	-0.20	71.50	71.76	-0.26	0.94	0.82	0.20		
60 (万延 1)	11.06	11.03	0.03	72.40	73.57	-1.17	0.96	0.94	0.60		
1861 (文久 1)	11.15	11.29	-0.14	73.60	75.33	-1.73	0.97				
62 ( 2)	11.84	11.70	0.14	79.75	77.99	1.76	0.99				
63 ( 3)	11.84			79.40	81.62	-2.22					
64 (元治 1)	12.62			84.78	86.49	-1.71					
65 (慶応 1)				90.55	88.52	2.03					
1866 ( 2)				97.95							
67 ( 3)	10.83			89.90							